
第8章 文化財の一体的・ 総合的な保存と活用

第8章 文化財の一体的・総合的な保存と活用

1. 設定の方針

(1) 関連文化財群とは

「文化財保護法に基づく文化財保存活用大綱・文化財保存地域計画・保存活用計画の策定に関する指針」(平成31年(2019)3月作成、令和3年(2021)6月変更 文化庁)では、関連文化財群について、「地域の多種多様な文化財を歴史文化の特徴に基づくテーマやストーリーに沿って一定のまとまりとしてとらえたものであり、まとまりをもって扱うことで、未指定文化財についても構成要素としての価値付けが可能となり、また、相互に結び付いた文化財の多面的な価値・魅力を発見することができる」としている。

(2) 関連文化財群を設定する理由

多くの文化財が把握された当市では、周辺環境も含めた文化財の有機的な結びつきをストーリーにまとめることで、歴史文化を体系的・構造的・視覚的にとらえることができるようになる。これによって、文化財の理解促進や一体的な魅力向上が期待される。

(3) 設定の経過

当初事務局の提案に基づき、市全域を対象とした関連文化財群を協議会で提示したが、地域に根ざした関連文化財群も作成すべきとの方向性が示された。そこで地域部会を開催し、各地域委員に地域の文化財と文化財群を提案する機会を設けた。その後、地域委員が提示した関連文化財群の内容について検討をおこない、地域ごとのストーリーを設定した「地域型関連文化財群」を作成するに至った。

本計画ではこうした設定経過によって、「テーマ型関連文化財群」と「地域型関連文化財群」の2種類を設定する。詳細は次節で述べるが、ストーリー構成や構成文化財の選択等については、以下の方針に基づいている。

方針 ① ストーリー	市民にとってわかりやすいストーリーとする。
方針 ② 構成文化財	指定文化財を中心に未指定文化財も加えて構成されるものとする。
方針 ③ 文化財群範囲	千曲市歴史的風致維持向上計画で、歴史的風致が設定されなかった地域にも文化財群を設定する。
方針 ④ 観光での活用	来訪者の周遊性につながるものとする。
方針 ⑤ 学習での活用	児童・生徒の地域の歴史学習につながるものとする。

2. 千曲市の関連文化財群

(1) テーマ型関連文化財群

テーマ型関連文化財群はテーマにもとづき設定した文化財群である。

第4章「歴史文化の特徴」では、本市における歴史文化の特徴を「道」、「山と信仰」、「観月と観光」、「創意工夫（産業）」、「千曲川と水」、「研究・教育」をキーワードとして6種にまとめた。これにそって、歴史文化が織りなす個々の指定・未指定の文化財を具体的に抽出し、ストーリーとして構成したものであり、その範囲は市内の全域に広がる。

(2) 地域型関連文化財群

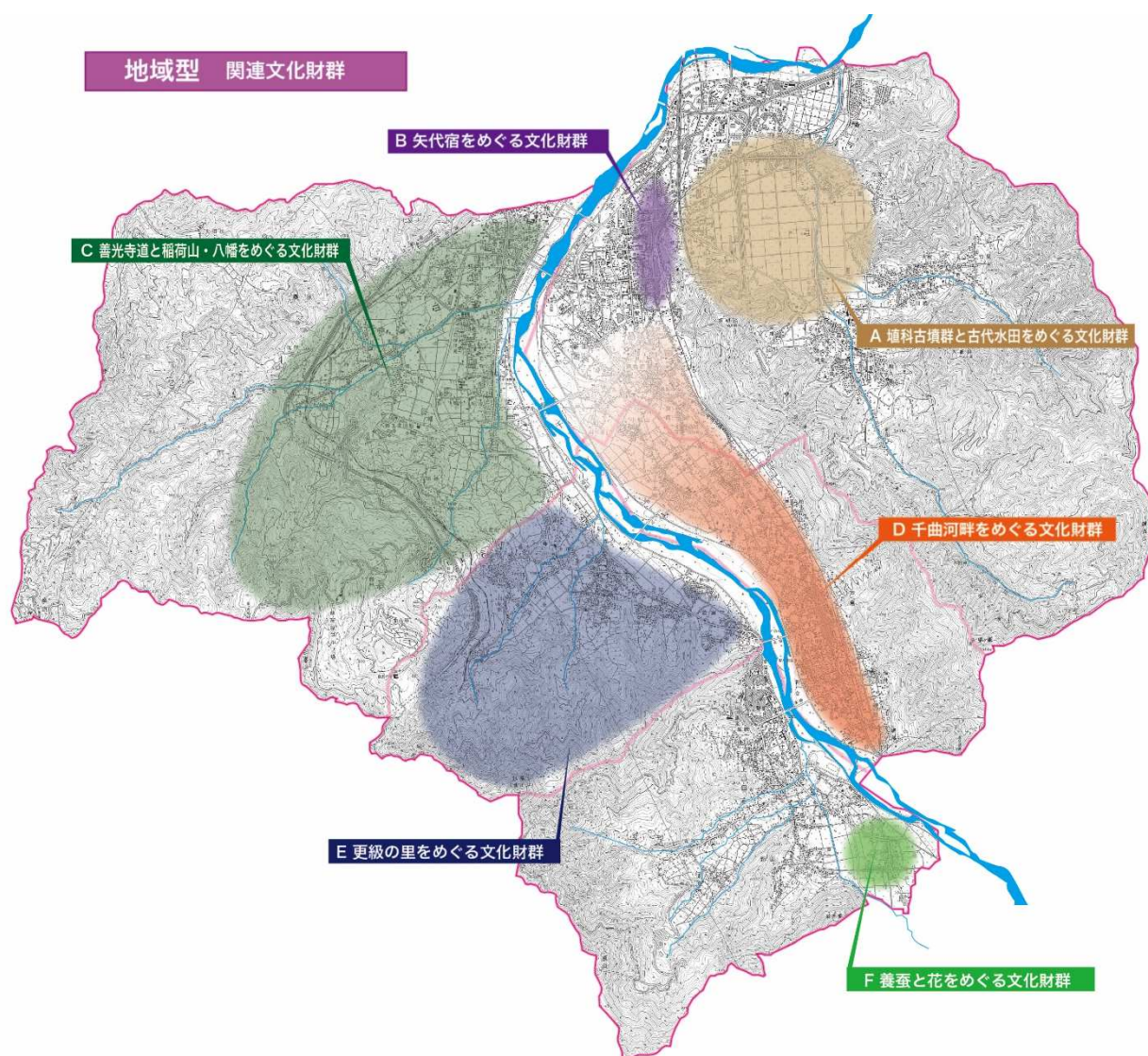
地域型関連文化財群は、地域的な特徴をストーリーとして構成した文化財群である。

「埴科古墳群と古代水田」、「矢代宿」、「善光寺道と稲荷山・八幡」、「千曲河畔」、「更級の里」、「養蚕と花」の6種を設定した。これらの地域には歴史文化の特徴にかかわる文化財が集中して分布している。地域型の関連文化財群については、本計画に記載された各事業を進める中で、市民等により新たにストーリーや構成文化財の追加の提案があれば、追加をすすめ、充実を図っていくことも想定される。こうした点において、地域型関連文化財群は増える可能性がある。

下の構造図に示すように、二つの種類の文化財群を設定することで、立体的・多角的・網羅的に千曲市の文化財を理解することにつながるものとする。



関連文化財群の構造図



各地域型関連文化財群の範囲

3. 関連文化財群と課題・方針・措置

第7章では、施策体系を明示するため、計画期間内に実施する51の措置を網羅的に記載した。

しかしながら、これらの措置は、実際には市内のいずれかの地区・地域で実施するものであるため、各措置（事業）は関連文化財群と強い関連をもって展開される。したがって、関連文化財群を構成する構成文化財の継承にはどのような課題があり、どのような方針のもとで措置を講じていくのかを整理し、記述することが必要である。

以下では、12の関連文化財群について、ストーリー、構成文化財とその概要、主な構成文化財の写真、構成文化財の位置を記すとともに、関連文化財群の課題・方針・措置を巻末に記載した。措置については、第7章に記した全体方針から、各関連文化財に関わるものを抜粋し、再掲したものであり、より具体的に事業実施の対象となる文化財を記載している。

テーマ型 関連文化財群 ストーリー①

交通の要衝と道に関わる文化財群

ストーリー

概要

長野県は、盆地の集合体であり、盆地を結ぶ主な交通路の位置は地形に制約される。そのため、歴史的にみても、主要な交通路は類似する場所に設けられる。千曲市は長野盆地南端部に位置し、坂城峡谷を通じて上田盆地に、冠着山の裾を通る峠道を越え、松本盆地に通じる交通の要衝である。それら地勢上の特性を象徴する古道、街道、宿場の建物、古墳、山城など文化財が数多く所在する。地勢上の特性を生かした歴史や文化がはぐくまれている。

古墳の築造と官道の成立

川東地区には、前期中頃に長野県域最大の前方後円墳である森將軍塚古墳が築造され、その後、有明山將軍塚古墳、倉科將軍塚古墳、土口將軍塚古墳の3基の古墳が連続して川東地区の山上に築造された。古墳時代後期になると、上山田地区の古墳のように横穴式石室をもつ小規模な円墳が築造されたが、こうした古墳の多くは、交通路の結節点や、古道沿いといった通行者が認識できる視認性の高い場所に位置しており、地域における、倭王権と関係や地域社会の構造を示すモニュメントとしての役割があったと考えられる。

奈良時代には千曲市域を通過する最古の官道とされる東山道支道が成立する。その位置については、不明な部分も多いが、麻績駅から古峠を越えて、更級郡衙推定地のひとつである社宮司遺跡付近を通過するルートであったと考えられる。各郡衙を結び、長野から松本方面へ、さらには都に向かうための、最短ルートとして重要な役割を果たした。

山城の築造と戦い

戦国時代になると、当地は、武田氏、上杉氏、村上氏による合戦の舞台となった。交通の要衝である当地をおさえることが戦国武将にとって重要であったためである。村上氏の山城である葛尾城跡^{かつらおじょうせき}や屋代氏の山城である屋代城跡、山田氏の山城である荒砥城跡など多くの山城が、交通路上重要な場所に築造され、戦いの舞台となった。八幡神を祀った武水別神社（当時は更科（級）八幡宮）や中世居館である松田館が所在する八幡地区を通り、一本松峠を越えて松本盆地へ抜ける一本松峠道はこの頃の主要街道であったとみられる。

街道の発展と宿場

江戸時代には、宿駅制度が東海道から中山道へと順次整えられた。千曲市を通っていた主な街道は、北国街道、善光寺道（北国西街道）、谷街道（松代道）である。北国街道は、中山道と北陸道を結ぶ街道で「北国往還」とも呼ばれ、五街道に次ぐ重要な街道に位置付けられた。中山道の追分宿（軽井沢町）から分かれ、信越国境を越え高田（新潟県上越市）で北陸道に接続し、出雲崎宿まで続くものであり、佐渡の金銀を江戸に運び輸送路としての役割があった。宿場は、矢代宿、下戸倉宿、上戸倉宿、寂時に間の宿が設けられた。現在も、旧街道の道沿いには、古い建物が立ち並び、当時の賑わいを今に伝えている。善光寺道は、中山道の洗馬宿（塩尻市）で分かれ、篠ノ井の追分で北国街道に接続する。稲荷山宿、桑原に間の宿（桑原宿）が設けられた。

鉄道の開通

明治時代になると、信越本線と篠ノ井線が開通し、宿駅制度に取って代わった。信越本線は、関東と日本海側を結ぶ幹線として、篠ノ井線は長野と松本、中京方面を結ぶ路線として人員や物資の輸送に重要な役割を果たした。篠ノ井線の篠ノ井―西条間では、開業当時の軌道敷や煉瓦造のトンネルや暗渠が現役で使用され、当時の技術の粋をみることができる。稲荷山宿は鉄道開通後、宿場町から物資の集積地に変貌と遂げた。稲荷山伝統的建造物群保存地区には当時の繁栄を示す街並みが残る。

構成文化財とその概要			
1 埴科古墳群	国史跡	遺 跡	森將軍塚古墳、有明山將軍塚古墳、倉科將軍塚古墳、土口將軍塚古墳の4基の前方後円墳が異なる尾根に築造される。
2 屋代遺跡群	包蔵地	遺 跡	初期信濃国府、埴科郡衙の推定地。多量の木簡が出土した。
3 東山道支道	未指定	遺 跡	松本盆地から長野盆地へ抜け、北陸道へとつながる東山道の支道。
4 北国街道	未指定	遺 跡	北陸と江戸を結ぶ江戸時代の主要街道。
5 善光寺道	国選定	遺 跡	松本盆地から長野盆地へ抜ける街道。猿ヶ馬場峠、桑原宿・稲荷山宿を経て篠ノ井追分で北国街道に合流する。茶屋跡群や一里塚が残る。
6 稲荷山伝統的建造物群保存地区	国選定	重伝建	19世紀初期以降発展した商家町。江戸時代以来の地割を良く残し、江戸時代末期から昭和戦前に建てられた特色ある伝統的建造物が残る。
7 桑原宿	未指定	伝建群	善光寺道沿いの宿場町。現在でも建物と地割が良く残る。
8 矢代宿	未指定	伝建群	北国街道沿いの宿場町。現在でも地割が良く残る。
9 下戸倉宿	一部国登録	伝建群	北国街道沿いの宿場町。坂井銘醸の建物は登録有形文化財。
10 上戸倉宿	未指定	伝建群	北国街道沿いの宿場町。宿付近の瀧澤家住宅は登録有形文化財。
11 社宮司遺跡	包蔵地	遺 跡	更級郡衙の関連遺跡。官衙の存在を裏付ける遺物が出土している。
12 一本松峠道	包蔵地	遺 跡	松本盆地から長野盆地へ抜ける古道。大池、棚田を通り、八幡へ向かう。
13 四十八曲峠古道 しじゅうはちまがりとうげ こうどう	市史跡	遺 跡	松本盆地から長野盆地へ抜ける古道。上山田を通り、麻績へ抜ける。
14 葛尾城跡	県史跡	遺 跡	村上義清の居城。麓の居館跡（坂城町）と合わせて県史跡 村上氏城館跡に指定されている。
15 屋代城跡	市史跡	遺 跡	一重山に築かれた屋代氏の居城。郭と堀切がよく残る。
16 小坂城跡 こさか	市史跡	遺 跡	龍洞院の裏山に築かれた山城。小笠原軍と上杉軍との戦闘の舞台。
17 入山城跡	市史跡	遺 跡	入山氏によって築かれた山城。大規模な堀切を残す。
18 荒砥城跡群	市史跡	遺 跡	山田氏の居城。荒砥城跡、荒砥小城跡、若宮入山城跡、證城跡から構成される、城郭群。荒砥城の主要な郭は開発で破壊されたが、城山史跡公園で再現。
19 武水別神社神主松田家館跡	県史跡	遺 跡	中世の平城跡。方形地割と土塁をよく残す。
20 稲荷山城跡	包蔵地	遺 跡	上杉景勝の城。稲荷山地区成立の契機。
21 篠ノ井線	国登録	建造物	明治33年（1900）開通。開業当時の軌道敷やトンネルが現役供用。
22 旧屋代線	未指定	建造物	大正11年（1922）に開業し、松代・須坂を結んだ。平成24年（2012）廃線。
23 上山田の古墳	市史跡	遺 跡	四十八曲峠の麓に集中する後期古墳。 こんびらやま よづか どうのうえ 金比羅山古墳・四ツ塚古墳群・堂上古墳・観音林古墳・釜屋1号墳。 かまや

伝建群：伝統的建造物群 包蔵地：周知の埋蔵文化財包蔵地

主な構成文化財の写真



1 埴科古墳群



2 屋代遺跡群



3 東山道支道



4 北国街道



5 善光寺道



6 稲荷山伝統的建造物群保存地区



7 桑原宿



9 下戸倉宿



13 四十八曲峠古道



15 屋代城跡



16 小坂城跡



17 入山城跡



18 荒砥城跡群



19 武水別神社神主 松田家館跡



21 篠ノ井線

構成文化財の位置



関連文化財群の課題

- ・道に関する資料や道の遺存状況が把握されないままに散逸・忘却の危機にある。
- ・稲荷山地区の整備方針が定まっていない。・説明板が少なく、既設の説明板も老朽化している。
- ・地域団体の活動への支援が必要である。

関連文化財群の方針

- ・街道に関する資料と実態を把握する。・稲荷山伝統的建造物群保存地区整備計画を策定する。
- ・説明板の設置・更新を進める。・地域団体と協力して、文化財を知ってもらう取り組みを行う。

関連文化財群の措置

事業番号	事業名	取組主体				計画期間		
		市	所有者	地域等	専門家	前期 R5 ～8	後期 R9 ～12	長期
措置3 (再掲)	未指定文化財詳細調査 現況記録作成調査を実施し、指定へとつなげる。	◎	○	○	○			
措置4 (再掲)	自治体誌掲載史料調査 重点措置 散逸防止のために早期に実態の把握調査実施。	◎	○	○	◎			
措置5 (再掲)	善光寺道詳細調査 善光寺道・松崎茶屋跡 試掘・確認調査を実施する。	◎	○	○	○			
措置10 (再掲)	(仮称) 稲荷山伝統的建造物群保存地区整備計画の策定 稲荷山地区の町並み整備を進めるための計画策定。 重点措置	◎	◎	○	◎			
措置11 (再掲)	稲荷山伝統的建造物群保存地区の整備 保存地区内の建物等の修理、修景を推進する。	◎	○	○	○			
措置18 (再掲)	説明板の新設・更新と文化財管理の推進(市指定) 入山城跡、小坂城跡、四十八曲峠古道 説明板新設。 屋代城跡、上山田の古墳 説明板更新。管理団体に謝金交付。	○	◎	◎	○			
措置35 (再掲)	口ケ地としての文化財施設利用 森將軍塚古墳、稲荷山地区、荒砥城跡 口ケ地利用を進める。	◎		○				
措置38 (再掲)	協働事業の協力・地域づくりでのアドバイザー協力 重点措置 屋代城跡、入山城跡、小坂城跡 地域団体と協力し山城整備推進。	◎	○	◎	○			
措置40 (再掲)	市民と協働した文化財調査の実施 市民と協力して市内の古文書などの実態を把握する。	◎	◎	◎	○			
措置47 (再掲)	森將軍塚古墳館・科野の里歴史公園の改修 復元竪穴建物の修理、展示のリニューアルを実施する。	◎		○	○			
措置49 (再掲)	城山史跡公園の改修 建物の修繕を進める。	◎		○				

テーマ型 関連文化財群 ストーリー②

冠着山に関わる文化財群

ストーリー

概要

千曲市を代表する冠着山は、またの名を姨捨山とよぶ。その山麓には、山岳信仰を伝える遺跡が点在し、麓と周辺には神仏習合を伝える社寺が点在する。宗教、文学、姨捨伝説が一体となった空間が作り出す、「山と信仰」の歴史文化が息づいている。

冠着山と「おぼすて山」説話

冠着山は標高 1,252m の独立峰であり、その山容は、遠方からでも望むことができる千曲市のランドマークとなっている。冠着山は姨捨山の別名から、棄老説話（「おぼすて山」）の舞台となっている。この話は仏教圏に共通する、親孝行を説く説話であり、平安時代に都人によってアレンジされ、『大和物語』に書かれたことで有名になった。『続日本紀』には、「更級郡の建部大垣という人物が親孝行だったため、税を一生免除された」と書かれており、京の都から遠く離れた地でのこうした出来事や、地名の響き、冠着山に照る月の美しくもわびしい雰囲気組み合わせ、

「おぼすて山」の舞台に選ばれたとみられる。

冠着山と仏教信仰

平安時代の後期から中世にかけて、「おぼすて山」の説話を背景として、冠着山は山岳信仰の山に変化した。周辺は仏教的な雰囲気包まれていたとみられ、これを裏付ける仏像や仏具といった文化財が多く所在する。

周辺の山頂や山腹には経典を埋納した多くの経塚（経塚群）が多くつくられ、長野県内で有数の集中地帯となっている。これらはいずれも、冠着山を望むことができる位置関係にあり、山岳信仰とかかわりをもつものと示唆される。上山田地区の智識寺には多くの仏像が安置されている。とりわけ、木造十一面観音立像は、一木造の平安時代末期の作である。智識寺大御堂に安置されるが、かつて冠着山麓の小堂にあったと伝わる。羽尾地区の明徳寺は、真言宗の寺院であり、ほど近い位置にある扇平地籍からは密教の法具一式が採集されている。八幡地区の社宮司遺跡からは全国唯一の木造六角宝幢が出土している。森地区の観龍寺には木造千手観音坐像・木造十一面観音菩薩立像・木造聖観音菩薩立像など、平安時代後期の仏像群が残り、寺院の裏山からは経塚（大峯経塚）が発見されている。

冠着山と麓の神社

冠着山麓の八幡地区には、延喜式内社である武水別神社が鎮座する。戦国時代の武将上杉謙信は、武水別神社で川中島合戦の戦勝を祈願したが、願文には、棚田と冠着山に照る月を仰ぎ見た時の光景を、「田毎満月之景」と表現しており、冠着山の背後から阿弥陀如来があらわれる、「山越し阿弥陀」のイメージを重ね合わせたと考えられる。神社と通りを隔てた広大な神官の屋敷である松田館や、神仏分離で廃寺となった神宮寺跡、その末寺のたたずまいが良く残り、神仏習合であった神社の姿を今に伝えている。武水別神社の境内では、毎年9月14日に仲秋祭が行われ、6～7地区の獅子舞神楽が奉納される。仲秋祭は、神宮寺の放生会に由来するといわれ、12月10日から15日に、戦国時代から記録が残る「大頭祭」と呼ぶ新嘗祭が賑やかに行われる。

復権運動と引き継がれる信仰

江戸時代に八幡地区の長楽寺一帯を指す名称となった「おぼすて山」であったが、明治時代になり、本来の姨捨山は冠着山という復権運動が起こった。こうした運動の中で冠着山が見える場所に冠着山遥拝所がつくられた。冠着山頂にある冠着神社には月の神、月読尊をはじめとする神々が祀られ、毎年7月下旬に地元の人びとが祭事を行う。

構成文化財とその概要			
1 冠着山	未指定	名勝地	標高 1,252m。市のランドマーク。山頂に冠着神社。
2 智識寺大御堂	重要文化財	建造物	平安時代末期、冠着山麓に小堂を建立したのが創建とされ、室町時代後半に現在地に建立されたと伝わる。
3 智識寺仁王門	市有形	建造物	室町時代後半の建築と推定。木造金剛力士立像（市指定）が安置される。
4 智識寺寺叢	市天然記念物	植 物	大御堂を取り囲むように約 120 本の古木が立ち並ぶ。
5 木造十一面観音立像	重要文化財	彫 刻	智識寺大御堂に安置。平安時代末期の作。一木造の立像。
6 智識寺の仏像	市有形	彫 刻	木造地藏菩薩立像・聖観音菩薩立像・木造釈迦如来坐像
7 曾根堂の不動滝一円	市名勝	名勝地	かつて智識寺の小堂があったと伝わる。山岳信仰の霊場。
8 樽 岩	市名勝	名勝地	高さ約 15m、幅約 82m の巨岩。岩上に戸隠権現が祀られる。
9 武水別神社社叢・ 摂社高良社本殿	県天然 県 宝	植 物 建造物	目通り 3m を超すケヤキを中心に約 400 本が茂る。 高良社本殿は室町時代末期の建築。
10 銅製釣燈籠	県 宝	工芸品	「嘉吉三年癸亥六月日」（1443）の紀年銘をもつ。
11 金銅製六角釣燈籠	市有形	工芸品	慶長 15 年（1610）、大久保長安による寄進。
12 伎楽面	市有形	彫 刻	金剛と力士の面。平安時代末～鎌倉時代の作。
13 獅子面	市有形	彫 刻	一木造りで横型。鎌倉時代の作と推定される。
14 大頭祭	国記録選択	民 俗	新嘗祭である大頭祭は、約 400 年間続く祭事。
15 武水別神社神主松田家館跡 武水別神社神官 松田邸	県史跡 市有形	遺 跡 建造物	松田家は、近世初頭から八幡宮の神主を務めた家柄。近世の神社経営に関する貴重な資料が多数保存されている。
16 経塚群	一部市指定	遺 跡	平安時代後半から中世にかけて山中に経典を埋納した塚。 冠着山周辺には数多くの経塚が築かれている。 経ヶ峰経塚、小丸山経塚、堂城山経塚、矢崎山経塚、大峯経塚。
17 扇平採集の密教法具	未指定	考古資料	冠着山中腹の扇平から密教法具一式が採集されている。
18 社宮司遺跡	包蔵地	遺 跡	更級郡衙関連遺跡。官衙の存在を裏付ける遺物が出土。
19 社宮司遺跡出土木造 六角宝幢	県 宝	考古資料	平安時代末期の木製仏塔であり、全国唯一の出土。
20 明德寺	未指定	建造物	天文年間(1532～1555)の再建と伝わる。
21 宝篋印塔 ほうきょういんとう	市有形	彫 刻	佐良志奈神社境内に安置。永和 2 年(1376)の記銘。
22 石造文化財	未指定	彫 刻	市内では信仰関連の石造文化財が 1,575 件確認される。
23 冠着山遥拝所	未指定	名勝地	明治時代に、娵捨山復権運動の中で冠着山が見える場所につくられた。稲荷山に石碑がのこる。
24 観龍寺の仏像	県 宝 ・市有形	彫 刻	平安時代後期および江戸時代の仏像が多く残る。 木造千手観音坐像・木造十一面観音菩薩立像・木造聖観音菩薩立像（以上 3 件県宝）・木造観音二十八部衆・木造不動明王立像・木造毘沙門天立像（以上 3 件市有形）。
25 佐良志奈神社 さらしなじんじゃ	未指定	建造物	延喜式内社。冠着山を奉斎して成立したとされる。

主な構成文化財の写真



1 冠着山



2 智識寺大御堂



5 木造十一面観音立像



7 曽根堂の不動滝一円



9 武水別神社



10 銅製釣燈籠



14 大頭祭



15 武水別神社神官 松田邸



16 経塚群（大峯経塚）



17 扇平採集の密教法具



19 社宮司遺跡出土木造六角宝幢



20 明徳寺



21 宝篋印塔（佐良志奈神社）

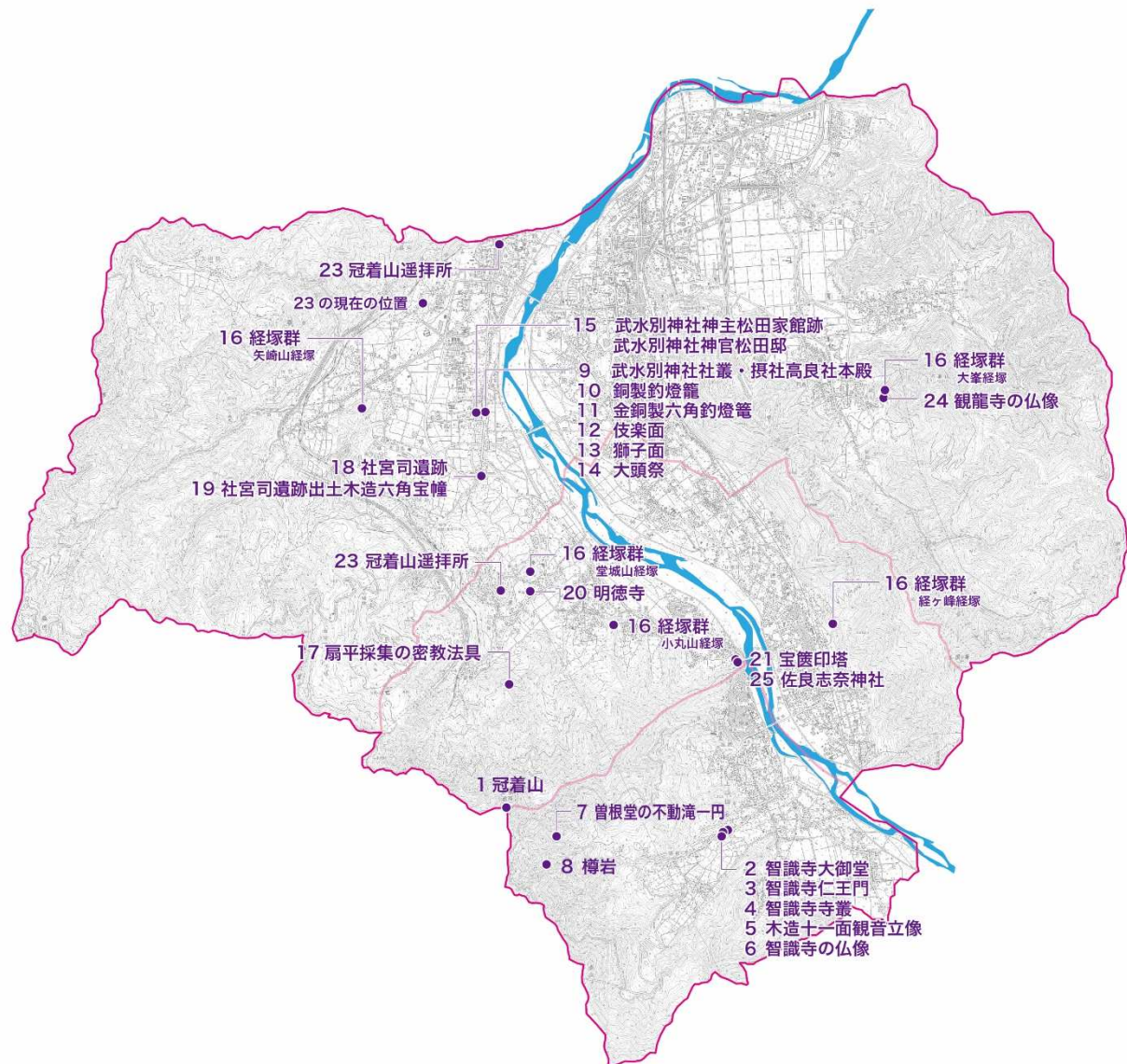


22 石造文化財



23 冠着山遥拝所

構成文化財の位置



10 銅製釣燈籠 11 金銅製六角釣燈籠 12 伎楽面 13 獅子面 武水別神社所蔵
22 石造文化財 多数あるため、地図に落としていない。

関連文化財群の課題

- ・冠着山と仏教に関する地域資料が散逸の危機にある。
- ・関連する文化財の展示場所が少なく、松田館の開館が急がれる。
- ・説明板が少なく、既設の説明板も老朽化している。
- ・社寺の歴史については地域住民にあまり知られていない。

関連文化財群の方針

- ・冠着山・八幡地区に関する資料を把握する。
- ・松田館の運営を軌道に乗せる。
- ・説明板の設置・更新を進める。
- ・地域団体と協力して、文化財を知ってもらう取り組みを行う。

関連文化財群の措置

事業番号	事業名	取組主体				計画期間		
		市	所有者	地域等	専門家	前期 R5 ～8	後期 R9 ～12	長期
措置4 (再掲)	自治体誌掲載史料調査 重点措置 史料散逸防止のために早期に実態の把握調査実施。	◎	○	○	◎			
措置3 (再掲)	未指定文化財詳細調査 神仏分離の古文書と寺院の仏像調査を実施し、指定につなげる。	◎	○	○	○			
措置7 (再掲)	冠着山総合調査 民俗、地質、植物、考古、文献による将来的な総合調査実施体制の実施の方策を研究する。	◎	○	○	◎			
措置18 (再掲)	説明板の新設・更新と文化財管理の推進（市指定） 樽岩・曾根堂の不動滝一円 説明板新設、智識寺仁王門の説明板更新。	○	◎	◎	○			
措置34 (再掲)	日本遺産を利用した各種事業 重点措置 信州千曲観光局と連携したツアーの実施や地域団体との協力。	◎	○	◎				
措置38 (再掲)	協働事業の協力・地域づくりでのアドバイザー協力 市民・団体と協力して構成文化財の整備を推進する。 重点措置	◎	○	◎	○			
措置40 (再掲)	市民と協働した文化財調査の実施 市民と協力して市内の古文書などの実態を把握する。	◎	◎	◎	○			
措置50 (再掲)	松田館の整備・公開 重点措置 焼損した松田館について、見学施設としての開館を目指し、運営を軌道に乗せる。	◎	○	○	◎			

テーマ型 関連文化財群 ストーリー③

観月と観光に関わる文化財群

ストーリー

概要

冠着山（古くは、「姨捨山」）は、「更級の姨捨山に照る月」で知られ、鏡台山からのぼる月、姨捨の棚田に映る「田毎の月」など、古くから月見の名所として知られ、多くの文人墨客が訪れた。古代からの「観月」に関わる文化の変遷と、観光の歴史を示す文化財が数多く所在する。現在でも、多くの来訪者があり、「観月」の歴史文化が息づいている。

姨捨山に照る月と鏡台山に昇る月

平安時代、冠着山は「我が心慰めかねつ更級や姨捨山に照る月を見て」と『古今和歌集』に詠われた。当時、この地には信濃国から京の都に通じる「東山道」の支道が通り、麓には更級郡衙が置かれていた。ここを通る旅人にとって、姨捨山はランドマークであり、照る月を仰ぎ見て都から遠く離れた心情を和歌に詠んだとみられる。

そうした心情が和歌に詠まれたことで、この地の月の美しさが都人に伝わり、憧れの地として月の名所になっていったと推定される。鎌倉時代の歌人である藤原定家は、この地を「月の都」になぞらえて称賛した。

江戸時代になると、千曲川対岸の鏡台山にのぼる月を長楽寺から楽しむように変化する。鏡台山の山名は月を鏡に、山を鏡台に見立てたことに由来する。松尾芭蕉は長楽寺に月見に訪れ、「おもかげや姨ひとりなく月の友」と詠んだ。以降、長楽寺周辺は芭蕉の歩いた所を巡る文人や墨客が多数訪れる観月の行楽地となり、境内には歌碑や句碑が建てられた。また、長楽寺の周辺の景勝地は「おぼすてじゅうさんけい姨捨十三景」として宣伝され、これを描いた絵図も作られた。こうした絵図には、鏡台山のほか一重山や有明山といった川東地区の山も含まれている。幕末には、歌川広重が浮世絵「信濃更科田毎月鏡台山」を描いたことで、知名度が一層高まった。

田毎の月と姨捨の棚田

「田毎の月」は、田植え前の満月の夜、水が張られた棚田ごとに月が映る様の表現である。実際には、一目で複数の月影が見えることはないが、畔道を歩けば田ごとに映った月影を見ることができる（名勝「姨捨（田毎の月）」）。姨捨の棚田は、戦国時代頃より知られ、上杉謙信が武水別神社で川中島合戦の戦勝を祈願した願文には、棚田と冠着山に照る月を仰ぎ見た時の光景が、「田毎満月之景」と表現されている。現在のように斜面全体に棚田が広がるのは溜池である大池が築造され、更級川を通じた水利灌漑が可能になった江戸時代以降のことである。

鉄道の開通と近代以降の観月

明治33年（1900）に開通した篠ノ井線では、長楽寺の上方、急こう配を上る機関車への給水を目的として標高551mの位置に姨捨駅が設けられた。駅の開業により、長楽寺の最寄り駅として、夜景と月を同時に観賞できる場所として著名になるとともに、姨捨公園やさくらしみず桜清水といった駅周辺の場所が観光地として知られるようになった。さらに、明治時代に戸倉上山田温泉が開湯したことで、大正時代から昭和時代かけて、宿泊地と観光名所が結びついた観光地として繁栄した。

近年では、姨捨駅より高所にある姨捨サービスエリア（平成5年（1993）供用開始）もまた、月見の場所として注目される。鉄道や高速道路といった近代以降の交通網が、あらたな観月の場所を生み出した、全国でも特異な地域である。また、現在冠着山頂にある冠着神社には月の神、月読尊が祀られており、麓のごうれいやま郷嶺山には冠着神社の里宮と、かんげつでん観月殿が造営されている。月の関わる信仰が息づく場所でもある。

構成文化財とその概要			
1 冠着山	未指定	名勝地	標高 1252m。市のランドマークの山。山頂に冠着神社。
2 姨捨（田毎の月）	国指定	名勝地	姨石や芭蕉の句碑などが残る長楽寺一帯と、四十八枚田、姪石一帯の棚田が指定されている。
3 姨捨の棚田	国選定	重要文化的景観	面積約 40ha、約 1,500 枚の棚田が残されている。棚田と更級川、水源の大池を含む 64.3ha が選定されている。
4 長楽寺	国指定	名勝地	八幡神宮寺の末寺。一帯は田毎の月として知られ、多くの文人・俳人が訪れ、句碑や文学碑が建立されている。
5 姨捨長楽寺の桂ノ木	市天然記念物	植 物	謡曲『姨捨』や江戸時代の絵図等にも登場する古木。
6 姨捨駅	未指定	建造物	スイッチバック方式の駅。駅舎は昭和 9 年（1934）の建築。
7 姨捨公園	未指定	名勝地	姨捨の棚田や善光寺平の夜景が眺望できる公園。
8 桜清水	未指定	名勝地	姨捨駅上方に湧水。明治天皇御膳水として用いられた。
9 長野銘醸	国登録	建造物	江戸時代から続く酒蔵。銘酒「姨捨正宗」で知られる。
10 武水別神社社殿	未指定	建造物	安和年間（968-970）に八幡社が勧請されたとされる。
11 武水別神社摂社 高良社本殿	県 宝	建造物	武水別神社の参道に建つ。創建は不明だが建築様式から室町時代後期の建築とされる。
12 武水別神社社叢	県天然記念物	植 物	目通り 3m を超すケヤキを中心に約 400 本樹木が茂る。
13 冠着神社	未指定	建造物	宝暦 4 年（1754）、冠着山の頂に社殿を建立、祭神は月読命。
14 観月殿	未指定	建造物	明治 24 年（1891）、羽尾地区の有志が郷嶺山に冠着神社の里宮を開き、観月殿とした。
15 鏡台山	未指定	名勝地	千曲川右岸にある標高 1,269m の山。頂上付近から、中秋の満月が昇る様子が山名の由来になった。
16 一重山	一部市有形	名勝地	有明山の支脈。屋代城跡（市史跡）が築城される。姨捨や田毎の月を描いた絵図などに登場する。
17 有明山	未指定	名勝地	姨捨や田毎の月を描いた絵図などに登場する山。月に関する名称がつく。
18 笹屋ホテル別荘	国登録	建造物	昭和 7 年（1932）、遠藤新により設計された近代和風旅館建築の先駆け。志賀直哉など多くの文人墨客が滞在した。
19 戸倉上山田温泉	未指定	文化的景観	明治元年（1868）千曲河原で温泉が発見され、明治 26 年（1893）に戸倉温泉、明治 36 年（1903）に上山田温泉が開湯した。
20 上山田温泉 第 1 号湯標石	市有形	歴史資料	明治 36 年（1903）、上山田温泉の開湯を記念して設置。
21 宮本虎杖関係資料	未指定	歴史資料	江戸時代中期の俳人。客人を姨捨に案内し、句会を催すなど、観月との関連が深い。

構成文化財の写真



1 冠着山



2 姨捨（田毎の月）



3 姨捨の棚田



4 長楽寺



6 姨捨駅



7 姨捨公園



8 桜清水



9 長野銘醸



10 武水別神社社殿



13 冠着神社



14 観月殿



15 鏡台山



17 有明山

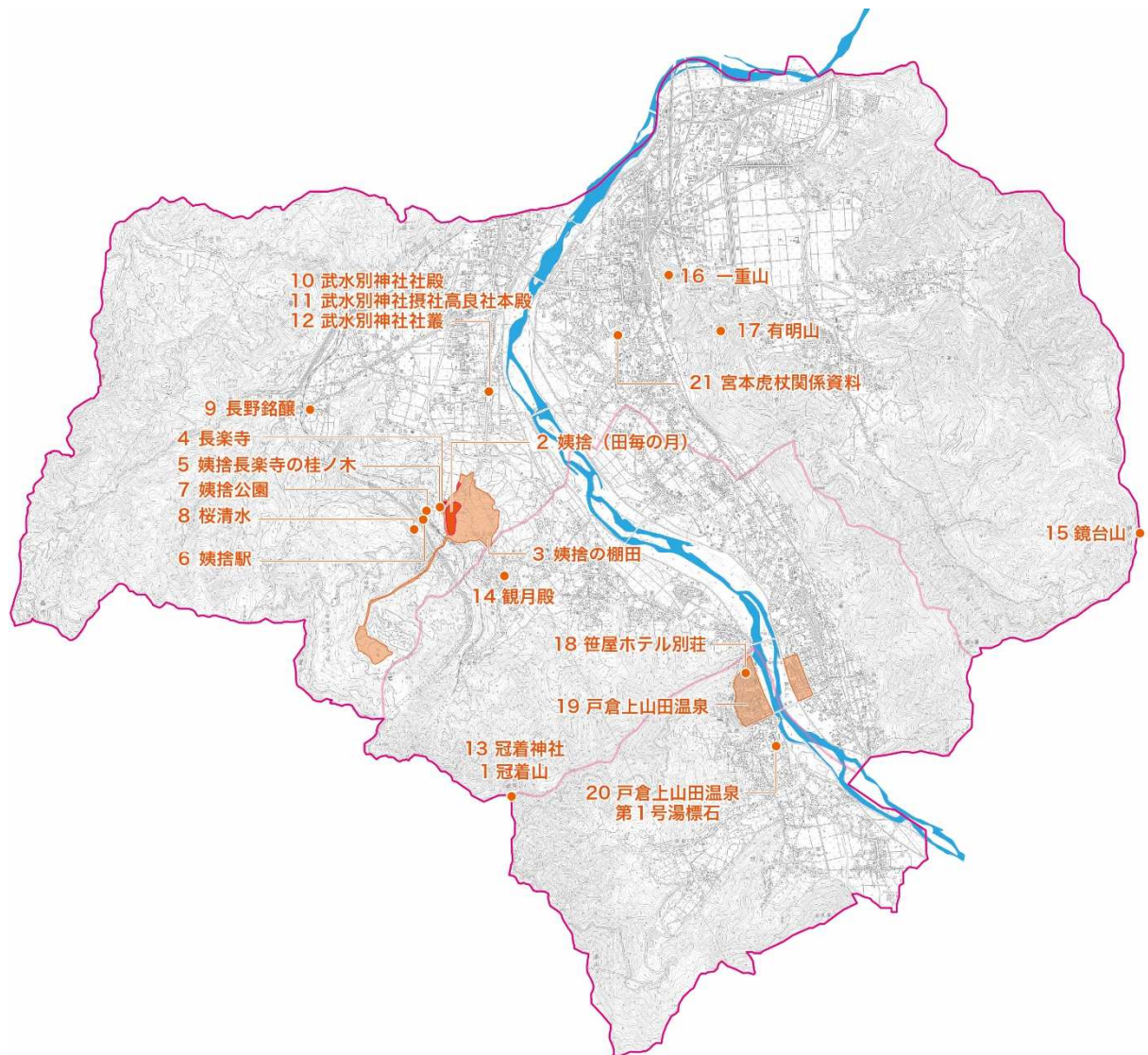


18 笹屋ホテル別荘



19 戸倉上山田温泉

構成文化財の位置



関連文化財群の課題

- ・観光に関する歴史資料の整理が不足している。
- ・日本遺産「月の都 千曲」の周知が不十分である。
- ・「姨捨の棚田」の保存・活用のための将来計画が未定である。
- ・文化財単体ではなく、各文化財をつないだ観月の文化のストーリーとして見学できるようにするための施策が必要である。

関連文化財群の方針

- ・観光に係る資料の把握を行う。
- ・観月文化を知ってもらうための拠点施設（日本遺産センター）で周知を図る。
- ・「姨捨の棚田」整備計画を策定する。
- ・来訪者に複数の文化財を見てもらうための事業を検討する。

関連文化財群の措置

事業番号	事業名	取組主体				計画期間		
		市	所有者	地域等	専門家	前期 R5 ~8	後期 R9 ~12	長期
措置3 (再掲)	未指定文化財詳細調査 観月・観光に関する調査を実施し、指定へとつなげる。	◎	○	○	○			
措置4 (再掲)	自治体誌掲載史料調査 重点措置 史料散逸防止のために早期に実態の把握調査を実施する。	◎	○	○	◎			
措置8 (再掲)	「姨捨の棚田」整備計画周知・調整・事業実施 重点措置 計画周知のための説明会を開催する。 記載事業の調整、実施を急ぎ進める。	◎	◎	◎	◎			
措置9 (再掲)	姨捨の棚田の管理道・水路等整備 策定計画に基づき、耕作条件を緩和するための管理道・水路等の整備事業を実施する。	◎	○	○	◎			
措置34 (再掲)	日本遺産を利用した各種事業 重点措置 信州千曲観光局と連携した見学ツアーを実施する。	◎	○	◎				
措置35 (再掲)	ロケ地としての文化財施設利用 松田館 ロケ地として施設利用の推進。	◎		○				
措置38 (再掲)	協働事業の協力・地域づくりでのアドバイザー協力 市民・団体と協力して構成文化財の整備を推進する。 重点措置	◎	○	◎	○			
措置40 (再掲)	市民と協働した文化財調査の実施 市民と協力して市内の古文書などの実態を把握する。	◎	◎	◎	○			
措置51 (再掲)	千曲市日本遺産センターでの展示 日本遺産に関連する歴史資料の展示を行う。	◎		○				

テーマ型 関連文化財群 ストーリー④

蚕糸業と果樹栽培に関わる文化財群

ストーリー

概要

幕末以降、当地は養蚕業、蚕種業（以下、蚕糸業）やアンズの栽培で栄えた。昭和時代以降は桑畑を利用した果樹栽培や蚕種の交配技術を生かした花き生産も盛行した。また、繭の出荷には、鉄道網が重要な役割を果たし、集積地としての屋代や稲荷山地区の発展の契機にもなった。壮大な養蚕民家や緩斜面に広がる果樹園は、当地特有の農村景観を構成している。時代に翻弄されつつも、土地の利を生かした創意工夫の文化を示す文化財が存在する。

蚕糸業の発展

戦前の長野県は諏訪地方を中心に製糸業が栄え、「製糸王国」といわれた。その繁栄を支えたのが、養蚕・蚕種業である。市内には、幕末から明治期に建てられた、気抜き屋根をもつ木造瓦葺きの大型建物（養蚕民家）が点在する。とくに力石地区では、壮大な養蚕建物群が連続して建ち並び、街並みを形成している。稲荷山地区は、繭やメリヤスをはじめとする物資の集積地でにぎわいをみせ、明治から大正時代の建物が建ち並び（稲荷山伝統的建造物群保存地区）。このほか、繭蔵の建築様式の倉庫（寿高原食品四階倉庫）も所在する。こうした建造物は、各地区で養蚕業が盛んであったことを伝えている。

養蚕業とともに蚕の卵を育てる蚕種業も盛行した。森地区や倉科地区の山中には、蚕種の出荷量や出荷時期を調整するため、天然の冷気で冷蔵保管する半地下式の施設、「風穴」が残る（森・倉科の風穴）。

市域における養蚕業は、大正9年（1920）にピークを迎えたが、価格暴落や昭和恐慌、化学繊維の登場などで衰退していった。こうした盛衰の経過は、五加村文書をはじめとする役場文書に記録されている。

養蚕・蚕種業は農家の主要な現金収入であったことから、蚕が無事に育つことを願った蚕神の信仰も広がり、各神社には社や石造物が建てられた。霊^{れい}浄^{じょう}山^{さん}石^{せき}仏^{ぶつ}はその一つで、蚕を食いあらずネズミを退治するネコを神格化したものである。

リンゴ栽培とアンズ栽培

各地区で養蚕が盛んに行われた明治時代、和田酒店の和田郡平によって明治22年（1889）に中原地区でリンゴ栽培が始められた。中原地区には、当時植えられたリンゴ国光の原木が現存する。昭和4年（1929）の世界恐慌により養蚕業が衰退し、変わって取り組まれたのが、リンゴ栽培であった。桑畑はリンゴ園へと転換し、広大な川西地区のリンゴ園が形成された。戦後は、観光地信州の発展とともに「信州リンゴ」として、知られるようになる。

一方、千曲川右岸の山裾に位置する森・倉科地区では、江戸時代から養蚕業と併行してアンズ栽培が行われてきた。咳止め薬として「杏仁」の採取が目的であったが、戦前より加工用または生食用に品種改良が進み、養蚕業から転換する農家も現れた。アンズ園の中に茅葺民家が点在する農村景観は「あんずの里」として知られるようになり、多くの観光客が訪れる地域になった。

力石地区の花き栽培

力石地区は、特に蚕種業で繁栄したが、昭和初期の衰退後、蚕種の品種改良の技術を生かした花きの栽培に取り組んだ。トルコギキョウが日本で初めて営利栽培されたのは当地区といわれている。力石地区の養蚕建物群の背後に位置する水田には花き栽培のビニールハウスが立ち並び、当地特有の景観が広がる。

構成文化財とその概要			
1 森・倉科の風穴	未指定	建造物	明治時代～昭和初期に蚕種の貯蔵に使用された。管理棟、蚕種整理室、冷蔵室が備えられていた。
2 寿高原食品四階倉庫	国登録	建造物	大正4年(1915)、商品倉庫として建てられた。繭蔵の建築様式を残す。
3 力石地区の養蚕建物群	未指定	建造物	気抜き屋根のある養蚕民家や蚕種貯蔵庫を持つ民家が数多く残っている。
4 中原のりんご国光原木	市天然記念物	植 物	明治の初年にアメリカから輸入された苗木。和田郡平が増殖したうちの一本で、長野県内最古と伝わる。
5 森・倉科地区の アズミ園	未指定	文化的景観	安永年間(1772-1781)に、松代藩が殖産興業として領内の村々にアズミの苗木を配付し、栽培を奨励した。主要産地であり、春は千曲市を代表する観光地となる。
6 五加村文書	未指定	古文書	旧五加村の役場文書。成立から戦後の町村合併までの村のすべての行政分野に関する簿冊が、年次ごとにほぼ完全な形に保存される。
7 更級村文書	未指定	古文書	旧更級村の役場文書。戦後の町村合併まで簿冊が、良好に残る。
8 旧上山田町所蔵古文書 旧上山田町所有古文書	市有形	古文書	旧上山田村の役場文書。養蚕も含めた戦後の町村合併まで資料が残る。
9 稲荷山伝統的建造物 群保存地区	国選定	伝健群	生糸集積やメリヤス製造で発展した商家町。江戸時代末期から昭和戦前の特色ある建造物が残る。
10 川西地区のリンゴ園 (桑原・更級・上山田)	未指定	文化的景観	川西地区の扇状地に広がる。昭和恐慌以降、桑畑はリンゴ畑に置き換わった。
11 霊諍山石仏	未指定	彫 刻	110体あまりの石仏がある。猫の石仏が特徴。
12 千石舟模型	市有形	工芸品	う る し ばらじんじゃ 宇留司原神社の境内にある。 養蚕の発展を願って舟を祀った信仰の一つ。

構成文化財の写真



1 森の風穴



2 寿高原食品四階倉庫



3 力石地区の養蚕建物群



4 中原のりんご国光原木



5 森地区のアンズ



6・7・8 五加・更級・上山田文書



9 稲荷山伝統的建造物群保存地区



10 川西地区のリンゴ園

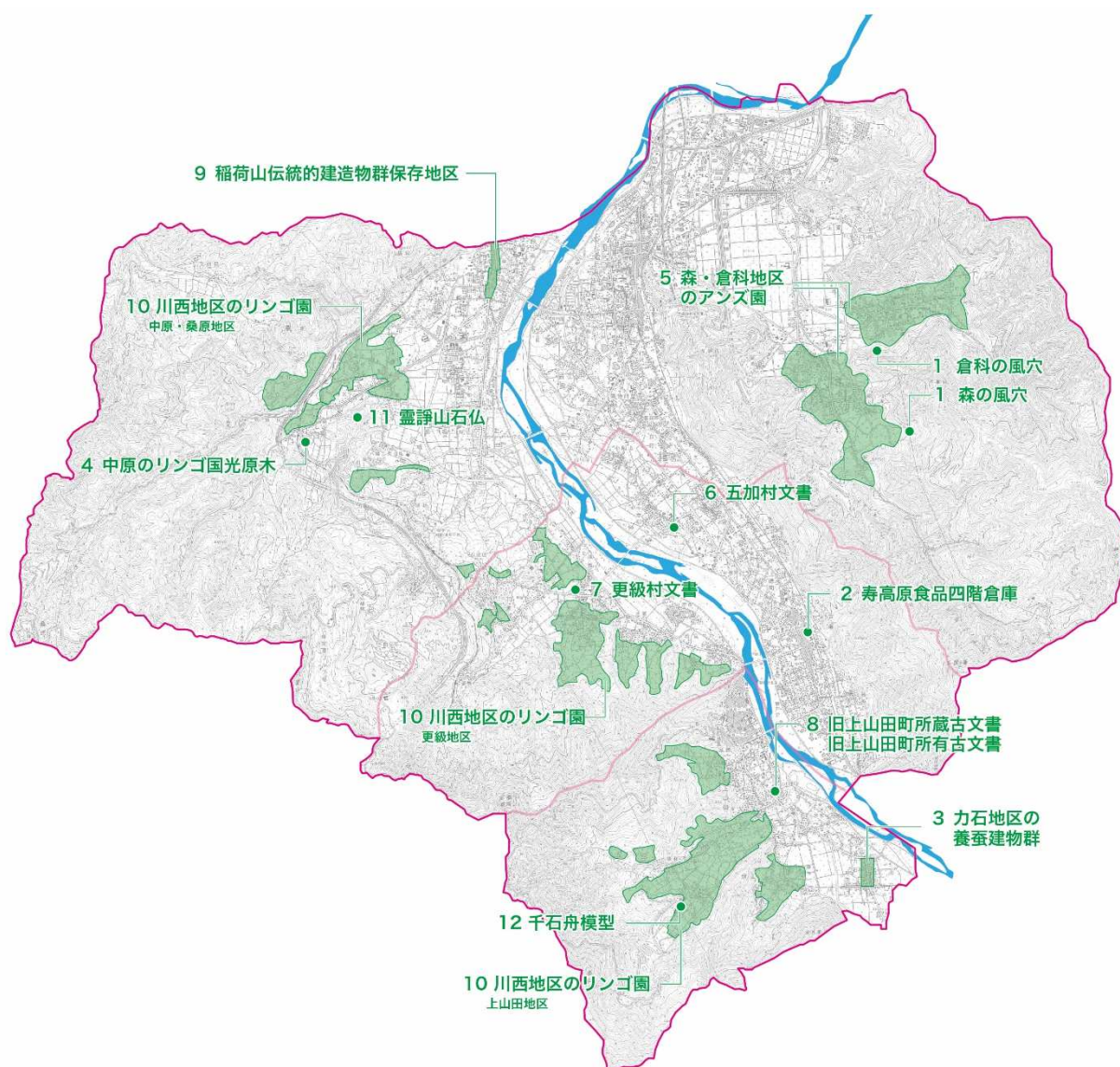


11 霊静山石仏



12 千石舟模型

構成文化財の位置



6 五加村文書、7 更級村文書、8 旧上山田町所蔵古文書・旧上山田町所有古文書 歴史文化財センター所蔵

関連文化財群の課題

- ・蚕糸業や果樹栽培に関する資料が把握されないままに散逸の危機にあり、養蚕、蚕種業について知っている人が高齢化している。
- ・養蚕民家が失われてきており、記録が必要である。
- ・地域団体の活動の支援が必要である。

関連文化財群の方針

- ・蚕糸業や果樹栽培に係る資料の把握を行う。
- ・関連文化財の調査を行い、養蚕民家等については、必要に応じて登録文化財への登録を推進するとともに記録作成を進める。
- ・蚕糸業について、知ってもらうための取り組みを進める。

関連文化財群の措置

事業番号	事業名	取組主体				計画期間		
		市	所有者	地域等	専門家	前期 R5 ~8	後期 R9 ~12	長期
措置3 (再掲)	未指定文化財詳細調査 未指定文化財の現況記録作成調査を実施。	◎	○	○	○			
措置4 (再掲)	自治体誌掲載史料調査 重点措置 史料散逸防止のために早期に実態の把握調査実施。	◎	○	○	◎			
措置18 (再掲)	説明板の新設・更新・管理の推進（市指定） 千石舟模型 説明板を更新。	○	◎	◎	○			
措置19 (再掲)	登録の推進 養蚕民家の登録を推進する。	◎	◎	○	◎			
措置20 (再掲)	登録有形文化財の修理支援 災害時の修理や小規模修理を中心に修理支援を推進。	○	◎	○	◎			
措置22 (再掲)	指定の推進・指定区分の整理 五加村・更級村文書 指定を推進する。	◎	○	○	◎			
措置23 (再掲)	学校所蔵民具の情報共有 重点措置 養蚕関係民具の情報共有を図る。	◎	○	○	○			
措置40 (再掲)	市民と協働した文化財調査の実施 市民と協力して市内の文書の実態を把握する。	◎	◎	◎	○			

テーマ型 関連文化財群 ストーリー⑤

千曲川と湧水に関わる文化財群

ストーリー

概要

市名の由来となった千曲川の豊かな水は、流域の人びとに多くの恵みをもたらす一方で、たびたび氾濫し、大きな被害をもたらしてきた。人々は、古代より洪水と闘いながら水路を建設し、新たな水田を開拓した。また山間部の湧水や伏流水を有効に利用した酒造業も行われるなど、豊かな水の恵みを楽しみながら暮らしてきた。千曲川や湧水といった水利用に関わる文化財が数多く所在する。

洪水と闘うムラ

平安時代における千曲川流域の大洪水として「仁和の洪水」が知られる。仁和3年（887）にハケ岳の山体崩壊によって千曲川の上流に形成された天然ダムが仁和4年（888）5月に崩壊し、流域に大災害を引き起こしたものである。戦国時代から江戸時代にかけては多くの洪水の記録が残されている。寛保2年（1742）の大洪水は「戌の満水」と呼ばれる大規模な洪水であった。こうした洪水に対処するため、千曲川に近い集落では、石垣の上に建物を建築したり（どぐち たかいしがき 土口の^{たかいしがき}高石垣）、水除け土堤（じゃくまぐ みずよけ どて 寂時の^{みずよけ}水除土堤）や霞堤（かすみでい 霞堤）を構築し、洪水から家屋を守った。

大正時代になると、内務省堤防と呼ばれる連続堤防が建設された。以後、被害が激減したが、令和元年（2019）10月には「令和元年東日本台風（台風19号）」で越水した水が流入するなど、洪水との闘いは現在も続いている。

千曲川と湧水の恵み

千曲川沿いの沖積地では、広く水稲耕作が行われている。とりわけ屋代地区から雨宮地区一帯は現在約230haの水田が作られ、通称「屋代田んぼ」と呼ばれる。弥生時代から水田としての土地利用が行われていた。平安時代になると信濃国有数の条里水田が形成された（こうしよくじょうり すいでんし 更埴^{こうしよくじょうり}条里^{すいでんし}水田址）。条里地割は昭和40年代のほ場整備で多くが失われたが、現水田の地下には洪水で埋没した水田遺構や遺物が存在している（屋代遺跡群水田遺構出土農耕祭祀遺物群）。水稲耕作においては、千曲川の水利用が欠かせない。近世以前に開削の起源をもつ用水路には、はにしなかんせんようすい ろっかごうようすい 埴科幹線用水^{はにしなかんせんようすい}、六ヶ郷用水^{ろっかごうようすい}、若宮用水^{わかみやようすい}があり、市域の水田を潤している。また、市内には、千曲川の伏流水、湧水を仕込み水に利用した酒造場も所在する（長野銘醸・坂井銘醸）。

千曲河畔の文化

市内では千曲川や水に関わる民俗行事も継承されている。千曲川右岸の雨宮地区の雨宮坐日吉神社では3年ごとに雨宮の神事芸能が執り行われる。祭りのクライマックスである「橋懸り」では、橋の欄干から千曲川に流れ込む沢山川の水面に獅子が豪快に頭を振る。千曲川右岸の武水別神社では、武水別神社頭人行事（大頭祭）とよぶ新嘗祭が毎年12月に執り行われる。氏子から選ばれた頭人は千曲川でみそぎを行い、祭りに臨む。

戸倉上山田温泉は、地下の熱源で温められた千曲川の浸透水が湧出したと考えられていたもので、明治26年（1893）に戸倉温泉、明治36年（1903）に上山田温泉が開湯した。当初は、洪水により繰り返し源泉が流失したが、「内務省堤防」の完成によって洪水の被害が激減し、大規模な温泉街が形成されるようになった。現在、30軒ほどの宿泊施設が建ち並び、裏小路には飲食店が軒を連ね、昭和の風情を残す温泉街としての町並みを形成している。

つけばは、ハヤ（ウグイ）が産卵期に水中の小石に集まる性質を利用した漁法である。つけば料理は河原にもうけた仮設小屋において、つけば漁で捕ったハヤを塩焼きや天ぷら等に調理して提供するもので、かつては多くの小屋が河畔に作られ、初夏の風物詩であった。

構成文化財とその概要			
1 内務省堤防と霞堤	未指定	建造物	大正7年(1918)より10ヵ年計画で千曲川の改修工事を実施。戸倉上山田温泉は、内務省堤防の完成により大きく発展した。洪水対策としての霞堤も残る。
2 つけば	未指定	民 俗	ハヤ(ウグイ)が産卵期に水中の小石に集まる性質を利用した漁法。つけば料理は千曲川の初夏の風物詩。
3 長野銘醸	国登録	建造物	寛文年間(1661~73)の創業である。江戸末期から大正時代の建物が残る。銘酒「嫉捨正宗」を醸造。
4 坂井銘醸	国登録	建造物	下戸倉宿にある造り酒屋。宝暦10年(1760)頃に築造された建物が残る。
5 武水別神社 頭人行事(大頭祭)	国選択	民 俗	八幡・更級・五加地区から選ばれた頭人の新嘗祭。千曲川で禊を行う。
6 寂蒔水除け土堤	未指定	建造物	元禄6年(1693)築造。洪水時、北国街道と土手の交差部を土のうや石で塞ぎ水害を防いだ。
7 雨宮の神事芸能	国指定	重要無形民俗	「雨宮の御神事」「獅子踊り」と呼ばれる雨宮坐日吉神社の祈念祭に行われる行事。3年ごとに行われている。祭りのクライマックスである「橋懸り」は著名。
や わ た な な か し ら 8 八幡の七 頭	未指定	名勝地	八幡地区の三峯山の山腹は湧水が豊富であり、代表される7か所の湧水を「八幡の七頭」と称する。
9 雨宮坐日吉神社	未指定	建造物	雨宮地区の神社。「雨宮の神事芸能」が行われる。
す す き み づ じ ん じ ゃ 10 須須岐水神社	未指定	建造物	屋代地区の神社。用水の起点の付近に位置する。
11 更埴条里水田址	包蔵地	遺 跡	弥生時代から平安時代の水田跡。千曲川とその支流から引水。
12 屋代遺跡群水田遺構 出土農耕祭祀遺物群	市指定	考古資料	仁和4年(888)の洪水砂で被覆された水田跡から出土した灰釉陶器を主体とする遺物群。
13 荏沢川石堰堤	国登録	建造物	明治15~17年(1882~84)、千曲川支流である荏沢川に設けられた石組みの砂防施設。
14 土口の高石垣	未指定	建造物	土口地区では1m以上の石垣上に家屋を立てて洪水を防いだ。
15 戸倉上山田温泉	未指定	文化的景観	明治元年(1868)、千曲河原で温泉が発見され、明治26年(1893)には戸倉温泉、明治36年(1903)には上山田温泉が開湯した。
16 六ヶ郷用水	未指定	建造物	起源は古代に遡るとされる。千曲川から取水し、網掛、上平、上五明、力石、新山、上山田村の六カ村(六ヶ郷)を灌漑した。
17 埴科幹線用水	未指定	建造物	千曲川から引水した用水路。屋代田んぼに配水される。
18 若宮用水	未指定	建造物	開削は17世紀半ばとされる。川西地区の水田を潤す。

構成文化財の写真



1 内務省堤防と霞堤



2 つけば



3 長野銘醸酒蔵



4 坂井銘醸



5 武水別神社頭人行事（大頭祭）



6 寂蒔水除け土堤



7 雨宮の神事芸能



8 八幡の七頭



9 雨宮坐日吉神社



10 須須岐水神社



11 更埴条里水田址



12 屋代遺跡群水田遺構出土農耕祭祀遺物群



13 桂沢川石堰堤

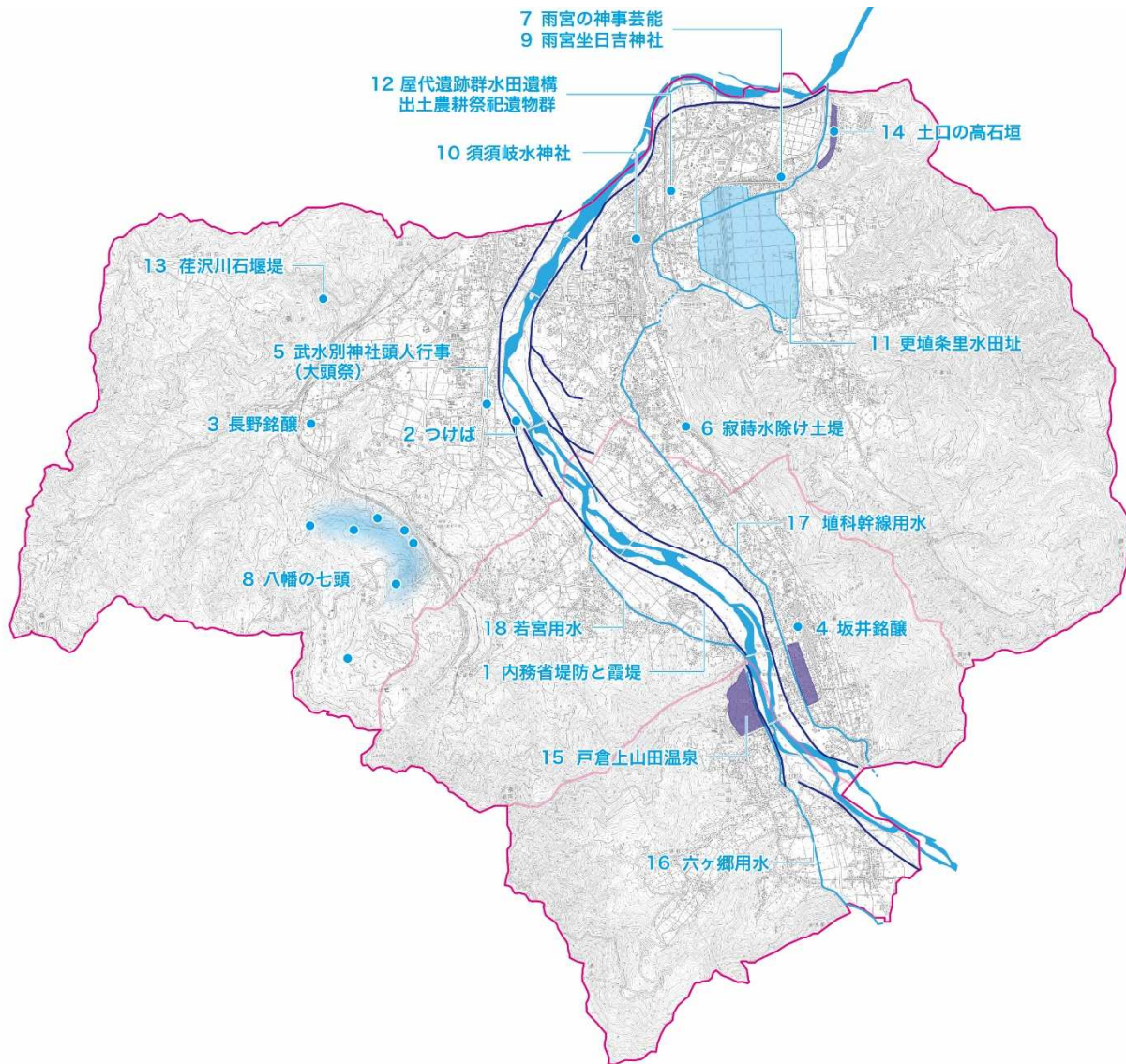


14 土口の高石垣



17 埴科幹線用水

構成文化財の位置



関連文化財群の課題

- ・千曲川に関する歴史資料が把握されないままに散逸の危機にある。
- ・酒造場の建物の老朽化が進んでおり、保存が危惧される。
- ・コロナ禍を契機としたまつりの継承が課題となっている。
- ・千曲川に関わる文化財があまり知られていない。

関連文化財群の方針

- ・千曲川と水資源に関する資料を把握する。
- ・酒造場の建物の修理等の措置をすすめる。
- ・まつり継承のための助成を行う。
- ・地域団体と協力して、文化財を知ってもらう取り組みを行う。

関連文化財群の措置

事業番号	事業名	取組主体				計画期間		
		市	所有者	地域等	専門家	前期 R5 ~8	後期 R9 ~12	長期
措置1 (再掲)	指定文化財詳細調査 屋代遺跡群水田遺構出土農耕祭祀遺物群 詳細調査をすすめ、資料の価値を高める。	◎	○	○	○			
措置3 (再掲)	未指定文化財詳細調査 雨宮坐日吉神社の所蔵資料等の調査を実施。	◎	○	○	○			
措置4 (再掲)	自治体誌掲載史料調査 重点措置 史料散逸防止のために早期に実態の把握調査実施。	◎	○	○	◎			
措置12 (再掲)	「雨宮の神事芸能」記録映像作成 新規 重要無形民俗文化財「雨宮の神事芸能」を伝承するための映像を作成する。	◎	○	◎	◎			
措置20 (再掲)	登録有形文化財の修理支援 長野銘醸・坂井銘醸 災害時の修理や小規模修理を中心に修理を支援する。	○	◎	○	◎			
措置21 (再掲)	埋蔵文化財の保存 重点措置 屋代地区の大規模開発にともなう広範な記録保存の推進。	◎	○	○	◎			
措置38 (再掲)	協働事業の協力・地域づくりでのアドバイザー協力 市民・団体と協力して構成文化財の整備を推進する。 重点措置	◎	○	◎	○			
措置40 (再掲)	市民と協働した文化財調査の実施 市民と協力して市内の古文書などの実態を把握する。	◎	◎	◎	○			

テーマ型 関連文化財群 ストーリー⑥

教育と郷土史研究に関わる文化財群

ストーリー

概要

当地域は古くから地域の人びとによる地域研究が行われ、また歴史学の研究のフィールドとして、さまざまな大学により研究が行われてきた。大学や大学の教員による、森將軍塚古墳と周辺遺跡の継続的な学術調査や五加村文書の調査は、歴史資料としての価値を高めてきた。こうした調査は、郷土研究者や地域住民の協力によって実施されたものであり、郷土の歴史を自らの手であきらかにしようとする風土が、現在も息づいている。

学校教育と戦前の郷土史研究の萌芽

長野県は、かつて「教育県」と呼ばれ、明治時代の前半においては、教育熱心な地方であった。各町村で新しい学校の建設がさかんに行われたが、屋代小学校旧本館もその一つで、明治21年（1888）に建築された擬洋風建築である。教育活動の中で、郷土史を知る取り組みは、教育関係者の主導で戦前期から行われていた。森將軍塚古墳は、大正時代に埴科教育会が東京の研究者を招聘し、古墳の踏査が実施されたものである。

戦後における郷土史研究の展開

戦後になると、地域と大学が協力して、継続的な学術調査が東京教育大学により実施された。昭和32年から36年（1957-1961）には、城ノ内遺跡の調査が実施され、自然堤防上の集落の実態があきらかになった。これは、「地域の歴史を把握する」という目標下で行われた当地初の発掘調査である。

昭和36年から38年（1961-1963）には、屋代地区のほ場整備に先立ち、地方では全国初の条里水田の総合調査が行われ、表面に見える条里地割は古代まで連続しないことが明らかになった。現在一帯は、更埴条里水田址として周知の埋蔵文化財包蔵地に登録され、遺跡の保護が図られている。昭和40年（1965）の森將軍塚古墳の調査では、全国最大規模の竪穴式石室が確認され、のちに長野県史跡に指定された。上山田地区の御屋敷遺跡は、開発に伴い上山田小学校教諭であった森嶋稔の主導のもと、昭和45年（1970）に緊急発掘調査が行われた。出土した土器は、古墳出現前夜の地域間交流を知る重要な資料として学会で注目されている（御屋敷土器一括）。

五加村文書は、現在の上徳間、千本柳、内川、小船山、中地区に所在した旧村である五加村が作成した膨大な行政史料である。村の成立から戦後の町村合併までの村のすべての行政分野に関する簿冊が、年次ごとにほぼ完全な形に保存され、戦前・戦時の役場文書の全体像を把握することができる。小作争議をはじめ戦前期における農村の実像を把握できる第一級の史料群である。資料は戦後、大学に注目され、調査が行われた。調査をもとに刊行された『近代日本の行政村』は近代農村研究の金字塔として知られる。

旧上山田町では『上山田町史』の編さんが昭和30年代に行われ、戦後早期に地域の歴史がまとめられた。編さんを主導したのは郷土史研究家の中島惣左衛門である。地域史の編さん過程を知る膨大な資料（中島惣左衛門資料）をはじめ、多くの古文書や歴史資料が残されている。

文化財の保存運動

森將軍塚古墳は、昭和40年代より採石による破壊の危機に瀕していた。地域の歴史への関心は、市民・行政・研究者による保存運動に昇華し、旧更埴市内の全世帯から91.1%の署名が集まった。これにより古墳は破壊から守られた。国史跡に指定されたのち、古墳本来の姿を市民だれもが理解できるものとするため、全面発掘調査を行い、当時の姿に復原された。現在社会科の教科書に掲載され、多くの学校が社会見学に訪れる古墳となっている。

構成文化財とその概要			
1 城ノ内遺跡	包蔵地	遺 跡	昭和 33～36 年（1958－1961）に実施された更埴地域初の学術発掘調査。東京教育大学が実施した。
2 森將軍塚古墳	国史跡	遺 跡	昭和 40 年代の学術調査により、全長約 100m の前方後円墳と判明。昭和 46 年（1971）に国の史跡、昭和 56 年から平成 3 年（1981-1991）にかけて全面的な発掘調査が行われ、築造当時の姿に復原整備。
3 更埴条里水田址	包蔵地	遺 跡	弥生時代から平安時代の水田跡。昭和 30 年代に地方で全国初の条里水田の総合調査が実施され、洪水砂に被覆された条里遺構が発見された。
4 屋代小学校旧本館	市有形	建造物	明治 21 年（1888）の建築。大工の棟梁たちが各地の洋風の学校を見学し、外観や意匠を模倣した「擬洋風建築」。文明開化の時代を象徴する重要な建物。
5 五加村文書	未指定	古文書	旧五加村の役場文書。成立から戦後の町村合併までの村のすべての行政分野に関する簿冊が、年次ごとにほぼ完璧な形に保存され、戦前・戦時の役場文書の全体像を把握することができる。
6 市川家古文書ほか	市有形	古文書	昭和 30 年代に調査され、指定文化財になった旧上山田町の文書群。 市川家古文書・庄内神社古文書・宮下家古文書・古畑家古文書・宮本家古文書・滝沢家古文書
7 森嶋稔資料	未指定	民 俗 考 古 資 料	森嶋稔（1931-1996）は、旧戸倉町の考古学者。小学校教員のかたわら多くの研究業績を残し、文化財保護の機運を高める大きな役割を果たした。書籍や調査図面をはじめとする膨大な所蔵資料は、平成 17 年（2005）千曲市に寄贈された。
8 御屋敷土器一括	市有形	考 古 資 料	上山田地区の御屋敷遺跡は森嶋稔が主体となって実施した当地域の初期の記録保存調査の一つ。出土土器は弥生時代から古墳時代への過渡期の様相を示す。3 世紀末～4 世紀初頭の土器群。
9 学校所蔵資料	未指定	民 俗 考 古 古文書	地区の小学校・中学校が所蔵する資料。博物館が建設される以前、地域の歴史資料は、学校に集まり収蔵されてきた。
10 中島惣左衛門資料	未指定	古文書 歴史資料	中島惣左衛門（1884-1962）は、旧上山田町の郷土史家。冠山文化研究会を主宰し、上山田町の文化財の保存に尽力した。『上山田町史』編さんに関する調査資料や書籍が千曲市に寄贈されている。

主な構成文化財の写真



1 城ノ内遺跡



2 森將軍塚古墳



3 更埴条里水田址



4 屋代小学校旧本館



5 五加村文書



6 市川家古文書ほか



7 森嶋稔資料

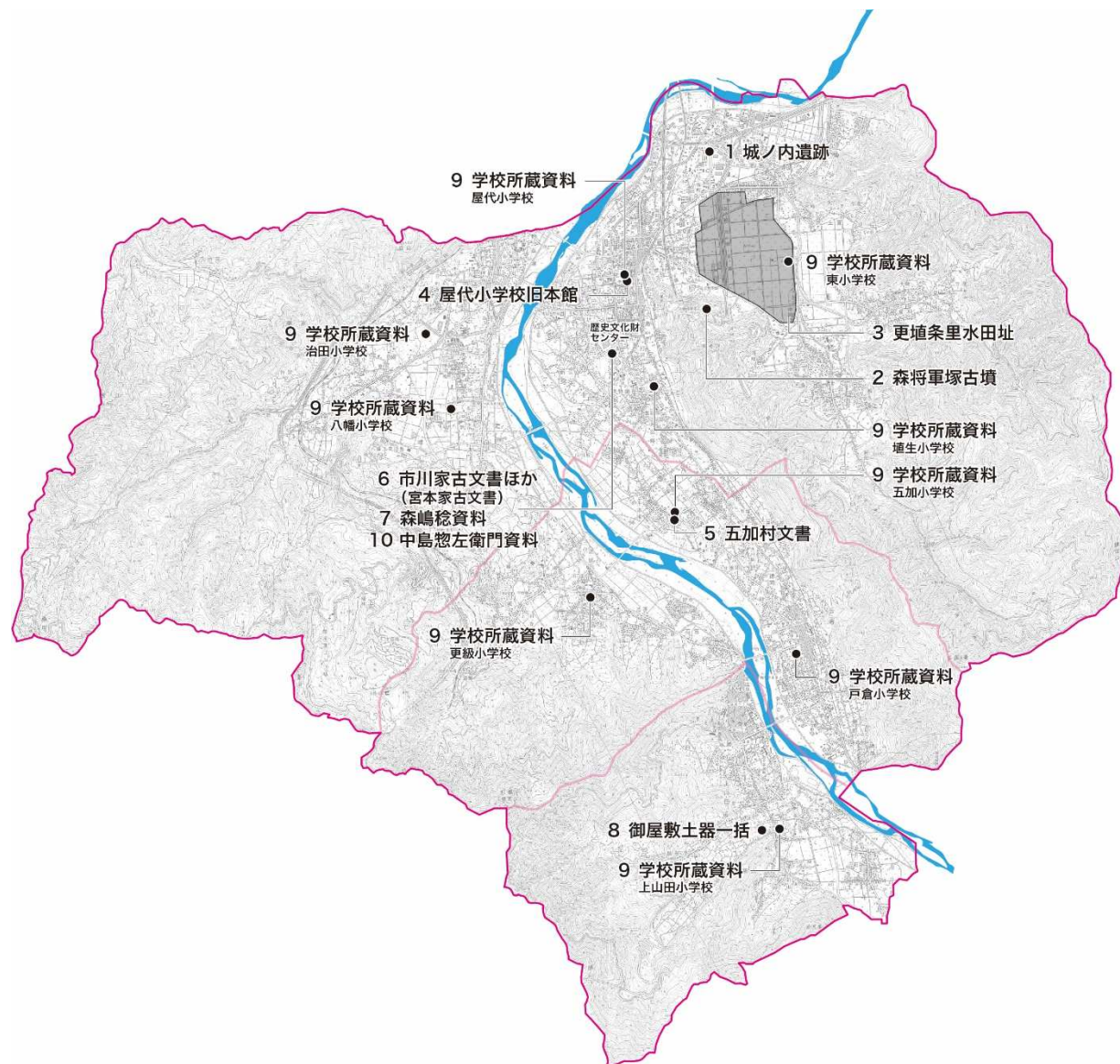


8 御屋敷土器一括



9 学校所蔵資料

構成文化財の位置



5 五加村文書 6 市川家古文書ほかのうち宮本家古文書 7 森嶋稔資料 8 御屋敷土器一括 10 中島惣左衛門資料 歴史文化財センター所蔵。

6のうち、宮本家古文書以外の古文書は個人蔵のため、地図に落としていない。

関連文化財群の課題

- ・出土資料の整理が不十分なままとなっており活用されていない。
- ・企画展の開催などの取り組みが不足している。
- ・屋代小学校旧本館が老朽化しており、修理が必要である。
- ・開発に伴う埋蔵文化財の適切な保護が課題となっている。

関連文化財群の方針

- ・大学や地域と協力した出土資料の再整理を行う。
- ・地域団体と協力して、文化財を知ってもらう取り組みを行う。
- ・屋代小学校旧本館の修理を行う。
- ・埋蔵文化財の保護を推進する。

関連文化財群の措置

事業番号	事業名	取組主体				計画期間		
		市	所有者	地域等	専門家	前期 R5 ～8	後期 R9 ～12	長期
措置6 (再掲)	歴史的考古資料詳細調査 新規 城ノ内遺跡・更埴条里遺跡等 東京教育大学が調査した学史上 著名な上記遺跡の出土遺物の再調査作業に取り組む。	◎	◎		○			
措置16 (再掲)	屋代小学校旧本館の改修 重点措置 有効な後利用を検討したのち、修理を実施する。	◎		◎	○			
措置29 (再掲)	学校の郷土資料室整理・資料の活用 学校の郷土資料室整備を児童や住民とおこない、活用できる 部屋にする。	◎		◎	○			
措置40 (再掲)	市民と協働した文化財調査の実施 寄贈史料の翻刻・目録の作成作業を順次実施。古文書講座を開催 し、サポーター養成につとめる。	◎	◎	◎	○			
措置48 (再掲)	さらしなの里歴史資料館・古代体験パークの改修 地域の歴史資料の展示を行う。	◎		○	○			

地域型 関連文化財群 ストーリーA

埴科古墳群と古代水田をめぐる文化財群

ストーリー

古代景観の追体験

概要

屋代、森、倉科、生萱、雨宮、土口の各地区では、埴科古墳群をはじめ、尾根の上や谷間、集落の周辺に数多くの古墳が残る。また後背湿地には通称「屋代田んぼ」と呼ばれる市内有数の水田地帯が広がり、その地下には古代の条里水田が眠る。奈良時代には郡衙や古代寺院がおかれ、古代埴科郡の中心地であった。現在でも、埴科古墳群をはじめとする墓域と集落域、生産域といった古代からの空間構成を視覚的にとらえることができる稀有な歴史的景観が広がり、埴科郡大領（郡司）の館跡の伝承も伝わる。

埴科古墳群の成立

古墳時代には、近畿地方の有力者との交流が深まる。前期中頃に長野県域最大の前方後円墳である、**森將軍塚古墳**が築造され、その後有明山將軍塚古墳、倉科將軍塚古墳、**土口將軍塚古墳**の3基の古墳が連続して川東地区の山上に築造された。これらの古墳は、地域首長の歴代王墓と推定される。**森將軍塚古墳**は三角縁神獣鏡の出土や大規模な竪穴式石室、埴輪の圍繞といった倭王権との関連を示唆する器物の副葬や埋葬施設の検出から、被葬者がいち早く政治的な関係を結んでいたことがわかる。**有明山將軍塚古墳**は、全長37mの前方後円墳で、**素文鏡**や小札革とじかざと綴とじを副葬する。**倉科將軍塚古墳**は、全長82mの前方後円墳で、短甲や鉄鏃などの鉄製武器が副葬されていた。古墳時代中期後半以降は渡来人との関係が示唆される積石塚古墳（**杉山古墳群**）が、後期後半以降は、横穴式石室を持つ円墳が築かれた。当時の中心地として古墳を築造できる階層に位置する集団の所在を物語る。

埴科郡衙と古代水田

奈良時代になると、千曲川を挟んで更級郡と埴科郡が置かれた。埴科郡は、**屋代遺跡群**の発掘調査において発見された木簡（**屋代遺跡群出土木簡**）によって、屋代地区に埴科郡の役所（郡衙）が存在していたことが確実視されている。貞観8年（866）には、「信濃国埴科郡屋代寺」が定額寺（準官寺）に格上げされたとの記録があり、この屋代寺は、雨宮地区で確認された**雨宮廃寺**であると考えられる。役所や寺など、当時の主要な施設が設けられた背景には千曲川の対岸を東山道支道が通過し、古代から交通の要衝であったことが関係しているとみられる。こうした地域開発を支えたのは、広大な後背湿地に形成された水田がもたらした生産力であり、弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世の水田遺構が重層的に包蔵されている。一帯は、弥生時代に灌漑水路を付属した小区画水田が導入され、平安時代に大規模な信濃国有数の条里水田が形成された（**更埴条里水田址**）。現在も「屋代田んぼ」と呼ばれる市内有数の水田が広がり、古代からの地域社会における空間構成を今に伝えている。

雨宮の神事芸能と伝承

雨宮地区の東に位置する**雨宮坐日吉神社**では3年に一度、**雨宮の神事芸能**が行われる。その起源は明確ではないが、疫病や洪水などのたたりを鎮め、田畑の豊穡を祈る祭りとされ、明治5年（1872）までは、屋代田んぼ周辺一帯の村々の合同の祭りであった。江戸時代は松代城に出向いて御神事踊りを披露した記録が残る。祭りのクライマックスである「橋懸り」は、沢山川の斎場橋から獅子を逆さに吊るし、獅子の髪（奉書紙）が剥がれ落ちて、沢山川から千曲川を流れ下り、新潟県に入る頃、屋代田んぼでは田植えがはじまるといわれている。神社の敷地は、埴科郡大領（郡司）の館跡であるとの伝承が伝わり、古代埴科郡の中心地であった誇りとともに、地域の営みを続けている。

構成文化財とその概要			
1 森將軍塚古墳	国史跡	遺 跡	全長 100m。古墳時代前期築造の長野県最大の前方後円墳。
2 森將軍塚古墳群	国史跡	遺 跡	森將軍塚古墳の周囲に築造された古墳群。
3 倉科將軍塚古墳	国史跡	遺 跡	全長 86m、古墳時代中期の前方後円墳。石室からは鉄鍬などが、隣接する倉科2号墳からは短甲が出土。
4 有明山將軍塚古墳	国史跡	遺 跡	全長 36m、古墳時代前期末の前方後円墳。小札冑が出土。
5 土口將軍塚古墳	国史跡	遺 跡	全長 62m、古墳時代中期の前方後円墳。短甲が出土。
6 こりょうがんづか 五量眼塚古墳	包蔵地	遺 跡	古墳時代中期の円墳。
7 杉山古墳群	未指定	遺 跡	古墳時代後期に築造された積石塚古墳群。 渡来人とのかかわりが示唆される。
8 白塚古墳	市史跡	遺 跡	古墳時代後期の古墳。横穴式石室が良好に残る。
9 いさがやきたやま 生簗北山1号墳・2号墳	市史跡	遺 跡	古墳時代後期の古墳。横穴式石室が良好に残る。
10 ひのお 日ノ尾古墳	包蔵地	遺 跡	古墳時代後期の古墳。長野盆地の横穴式石室の年代決定の標識資料である横穴式石室が良好に残る。
11 屋代遺跡群	包蔵地	遺 跡	多量の木簡が出土した。初期信濃国府、埴科郡衙の推定地。
12 更埴条里水田址	包蔵地	遺 跡	弥生時代から平安時代の水田跡。仁和4年（888）の洪水砂に被覆された条里地割の水田跡が地下に残る。
13 雨宮廃寺跡	包蔵地	遺 跡	奈良時代建立の古代寺院。定額寺「屋代寺」に比定される。
14 みなみとのいり こようし 南 殿入古窯址	包蔵地	遺 跡	雨宮廃寺の瓦を焼成した窯跡。
15 雨宮坐日吉神社	未指定	建造物	雨宮地区の神社。雨宮の神事芸能が行われる。 埴科郡大領の館跡の伝承が伝わる。
16 ゆみはりいし 弓張石	未指定	民 俗	埴科郡大領の館跡の伝承が伝わる。
17 いかりがわ 五十里川	未指定	文化的景観	更埴条里水田に水を供給する河川。
18 埴科幹線用水	未指定	建造物	千曲川の水を坂城町の頭首工からトンネル等を通じて 屋代田んぼに水を供給する用水路。
19 屋代遺跡群水田遺構 出土農耕祭祀遺物群	市有形	考古資料	仁和4年（888）の洪水砂で被覆された水田跡から出土した 灰釉陶器を主体とする遺物群。
20 屋代遺跡群出土木簡	県 宝	考古資料	上信越自動車道建設に伴う発掘調査で出土。 初期信濃国府、埴科郡衙に関連する木簡群。

主な構成文化財の写真



1 森將軍塚古墳



3 倉科將軍塚古墳



4 有明山將軍塚古墳



5 土口將軍塚古墳



8 白塚古墳



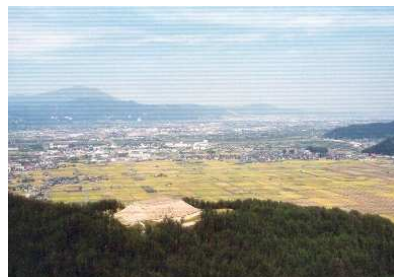
9 生萱北山1号墳・2号墳



10 日ノ尾古墳



11 屋代遺跡群



12 更埴条里水田址



13 雨宮廃寺跡



15 雨宮坐日吉神社



16 弓張石



17 五十里川

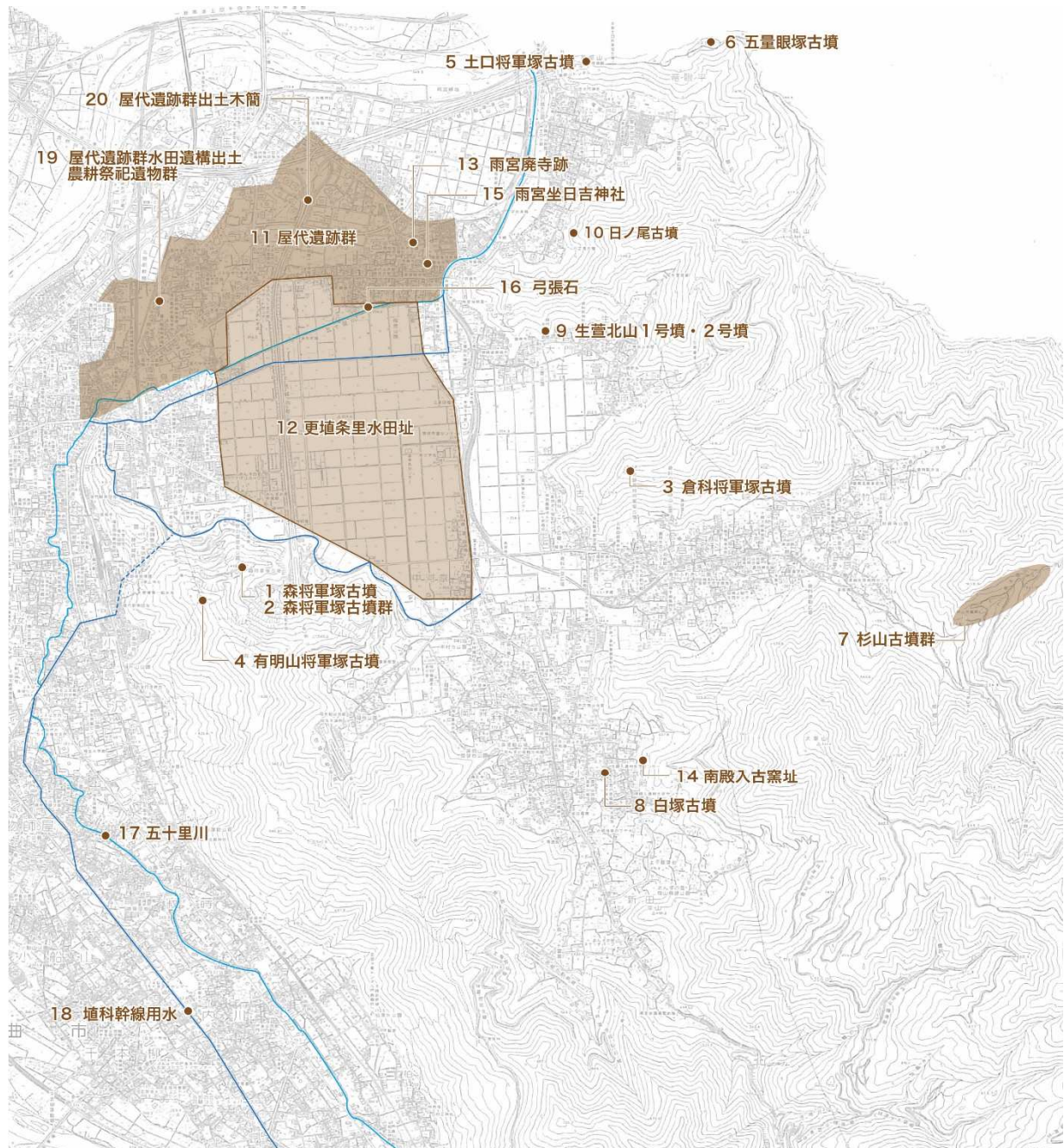


18 埴科幹線用水



19 屋代遺跡群水田遺構出土農耕祭祀遺物群

構成文化財の位置



※ 19 屋代遺跡群水田遺構出土農耕祭祀遺物群 歴史文化財センター所蔵

関連文化財群の課題

- ・科野の里歴史公園の復元住居や森將軍塚古墳館の展示が老朽化している。
- ・開発にともなう埋蔵文化財の保護が急がれる。
- ・「雨宮の神事芸能」の継承に課題を抱える。

関連文化財群の方針

- ・科野の里歴史公園の復元住居の改修を行い、森將軍塚古墳館の展示を充実させる。
- ・開発にともなう埋蔵文化財の把握と周知・確実な記録保存の方策を充実させる。
- ・「雨宮の神事芸能」の記録作業を進める。

関連文化財群の措置

事業番号	事業名	取組主体				計画期間		
		市	所有者	地域等	専門家	前期 R5 ~8	後期 R9 ~12	長期
措置1 (再掲)	指定文化財詳細調査 屋代遺跡群水田遺構出土農耕祭祀遺物群 詳細調査を実施。	◎	○	○	○			
措置4 (再掲)	自治体誌掲載史料調査 重点措置 史料散逸防止のために早期に自治体史掲載考古資料の実態把握調査実施。	◎	○	○	◎			
措置6 (再掲)	歴史的考古資料詳細調査 新規 城ノ内遺跡・更埴条里遺跡等 出土遺物の再整理。	◎	◎		○			
措置12 (再掲)	「雨宮の神事芸能」記録映像作成 新規 重要無形民俗文化財を伝承するための映像を作成する。	◎	○	◎	◎			
措置14 (再掲)	説明板の新設・更新と文化財管理の推進（国・県指定等） 有明山將軍塚古墳、倉科將軍塚古墳、土口將軍塚古墳 老朽化した説明板の更新。管理団体に管理謝金交付。	○	◎	◎	○			
措置18 (再掲)	説明板の新設・更新と文化財管理の推進（市指定） 生萱北山1号墳・2号墳 老朽化した説明板を更新 未設置説明板の新規設置、管理団体に管理謝金交付を促進。	○	◎	◎	○			
措置21 (再掲)	埋蔵文化財の保存 重点措置 屋代地区開発に伴う広範な記録保存等保護措置の推進。	◎	○	○	◎			
措置38 (再掲)	協働事業の協力・地域づくりでのアドバイザー協力 協働事業・地域づくり計画へのアドバイザー協力。 重点措置	◎	○	◎	○			
措置40 (再掲)	市民と協働した文化財調査の実施 雨宮坐日吉神社 地域団体と協力して実態を把握する。	◎	◎	◎	○			
措置47 (再掲)	森將軍塚古墳館・科野の里歴史公園の改修 復元竪穴建物の修理、展示のリニューアルを実施する。	◎		○	○			

地域型 関連文化財群 ストーリーB

矢代宿^{やししろじゆく}をめぐる文化財群

ストーリー

矢代宿を中心とした文化財

概要

北国街道は、江戸時代に成立し、中山道と北陸道を結ぶ街道である。追分宿（現軽井沢町）で中山道と分かれ、越後国出雲崎宿（現新潟県出雲崎町）に至る。佐渡の金銀が江戸に運ばれ、加賀藩^{かがはん}の参勤交代^{さんきんこうたい}に使われるなど、北陸と江戸を結ぶ主要な街道の一つであった。矢代宿は北国街道の宿場町の一つであり、これを中心に発展を遂げた屋代地区には、近世から近代にかけての繁栄を物語る文化財が存在する。

屋代城と屋代氏

一重山は、屋代地区の東側に所在する有明山から南北に伸びた支脈である。山頂には古墳痕跡が残り、山麓から武蔵型板碑も出土するなど、古代・中世は墓域として利用されたとみられる。戦国時代にはその尾根を利用し、屋代城が構築された。村上氏の代官屋代氏によって築城されたもので、郭や大規模な堀などの施設が良好に残されている。

屋代城が築かれた頃、信濃では甲斐の武田信玄の侵攻に対し、村上氏などが救援を求め、越後の上杉謙信との「川中島の合戦」が起こった。屋代氏は武田氏に味方し、所領の継承を図った。武田氏が織田信長に滅ぼされ、また織田信長が本能寺で自害すると、屋代氏は北信濃を支配した上杉氏に付き、更級・埴科両郡にまたがる領主となった。その後、屋代氏は上杉氏から徳川方に離反し、徳川家の家臣となって近世大名へと成長していった。「屋代家文書ほか一括」は、戦乱の中で領主を替えて生きのびた様子を物語る史料である。

北国街道の矢代宿

千曲市域では、古代・中世を通じて甲斐や越後との往来のために、街道や宿が形成されたとみられる。江戸時代には、宿駅制度が整えられた。北国街道は、中山道と北陸道を結ぶ街道であり、五街道に次ぐ重要な街道に位置付けられた。矢代宿は松代を通り、越後国十日町に至る谷街道（松代道）の分岐点であり、千曲川の渡しを越え、善光寺道の稲荷山宿にも繋がる重要な結節点に位置していた。参勤交代をはじめ、多くの人馬や物資が往来した。明治11年（1878）には明治天皇が北陸・東海道巡幸を馬車で行い、矢代宿に小休所が設けられた（明治天皇御小休所跡^{めいじてんのうごしゅうきゅうしょあと}）。

道路拡幅がおこなわれたため、古い建物はわずかに残るのみであるが（旅籠藤屋^{はたごふじや}）、かぎの手状の道や須須岐水神社^{すすきみづじん}本殿、寺院、短冊状の地割が宿場の賑わいを今に伝えている。

近代の屋代と屋代小学校旧本館

明治21年（1888）、信越線長野ー上田間が開通し、屋代地区に屋代駅が開業した。明治24年（1891）には屋代駅と稲荷山を結ぶ道路が完成し、屋代駅周辺に運送業・旅館・食堂・商店が立ち並んだ。街道の宿場町を基礎として、商業活動が大きく発展したことで、大正・昭和時代初期には駅前を中核とした商業市街地の景観が形成された。

こうした経済的繁栄を基盤とし、教育に対する機運の高まりの中で学校が設立され、校舎が建てられた。「屋代小学校旧本館」は、明治21年（1888）に建築された木造校舎である。当時、地元の大工たちが見よう見真似で建てた洋風建築で、「擬洋風建築」と呼ばれている。

明治時代後半になると、日露戦争による国民生活の悲惨な状況から、社会主義への関心が高まった。屋代町の農家に生まれた新村忠雄もそのひとりで、幸徳秋水ら社会主義運動に傾倒し、明治43年（1910）に起こった大逆事件により死罪判決を受けた12名のうちの一人である。新村の墓は、屋代地区にある（新村忠雄の墓石）。

構成文化財とその概要			
1 屋代城跡	市史跡	遺 跡	一重山全域に城郭施設を設けた山城。郭と堀切が良好に残る。
2 須須岐水神社本殿	未指定	建造物	嘉永5年（1852）、立川流の宮大工立川和四郎富昌による再建。
3 一重山の地藏堂 かねつきどう ・鐘撞堂	未指定	建造物	天正3年（1575）に「鼻取り地藏」が安置されたと伝わる。 明治2年（1869）建立の鐘撞堂は「山ん堂の鐘」とよばれた。
4 旅籠藤屋	未指定	建造物	北国街道沿いに残る和風旅館建築。
5 屋代小学校旧本館	市有形	建造物	明治21年（1888）に建設された擬洋風の学校建築。
6 北国街道	未指定	遺 跡	北陸地方と江戸を結ぶ主要街道。 宿場町特有の短冊状地割が残る。
7 「屋代家文書」 ほか一括	市有形	古文書	屋代氏に関する戦国時代から近代までの歴史を物語る 武家資料群。
8 法華寺 十二神将 ほっけ じじゅう に しんしょう	未指定	彫 刻	弘治3年（1557）に祐意法印が中興開山として再建した際に安置したと伝わる。寄木造、像高約60cm。
9 永代寺北向厄除 えいたい じ きたむきやくよけ かん ぜ ぶん ぼ さつりゅうぞう 観世音菩薩 立像	未指定	彫 刻	鎌倉時代末期の作と推定される。寄木造、像高187cm。
10 須須岐水神社の 春祭り	未指定	民 俗	5月3日の春祭りに神輿の町内巡行、山車の曳行、勢い獅子の 練り出し、子ども神輿の巡行が行われる。
11 明治天皇御小休所跡	未指定	遺 跡	明治11年（1878）の明治天皇巡幸時に休憩した場所の跡。石碑が建つ。
12 矢代宿脇本陣跡	未指定	遺 跡	矢代宿の脇本陣の跡。現在は石碑が建つ。
13 一重山出土の板碑	未指定	考古資料	明治時代に一重山神社建設の際に出土した武蔵型板碑。
14 新村忠雄の墓石	未指定	石造物	大逆事件の幸徳秋水の書生・新村忠雄は屋代町出身で、明治44年（1911）に24人全員死刑判決が下されたが、特赦で無期懲役となった。墓は、屋代地区にある。

主な構成文化財の写真



1 屋代城跡



2 須須岐水神社本殿



3 一重山の地藏堂・鐘撞堂



4 旅籠藤屋



5 屋代小学校旧本館



6 北国街道



7 屋代家文書



10 須須岐水神社の春祭り



12 矢代宿脇本陣跡



9 永代寺北向厄除観世音菩薩立像

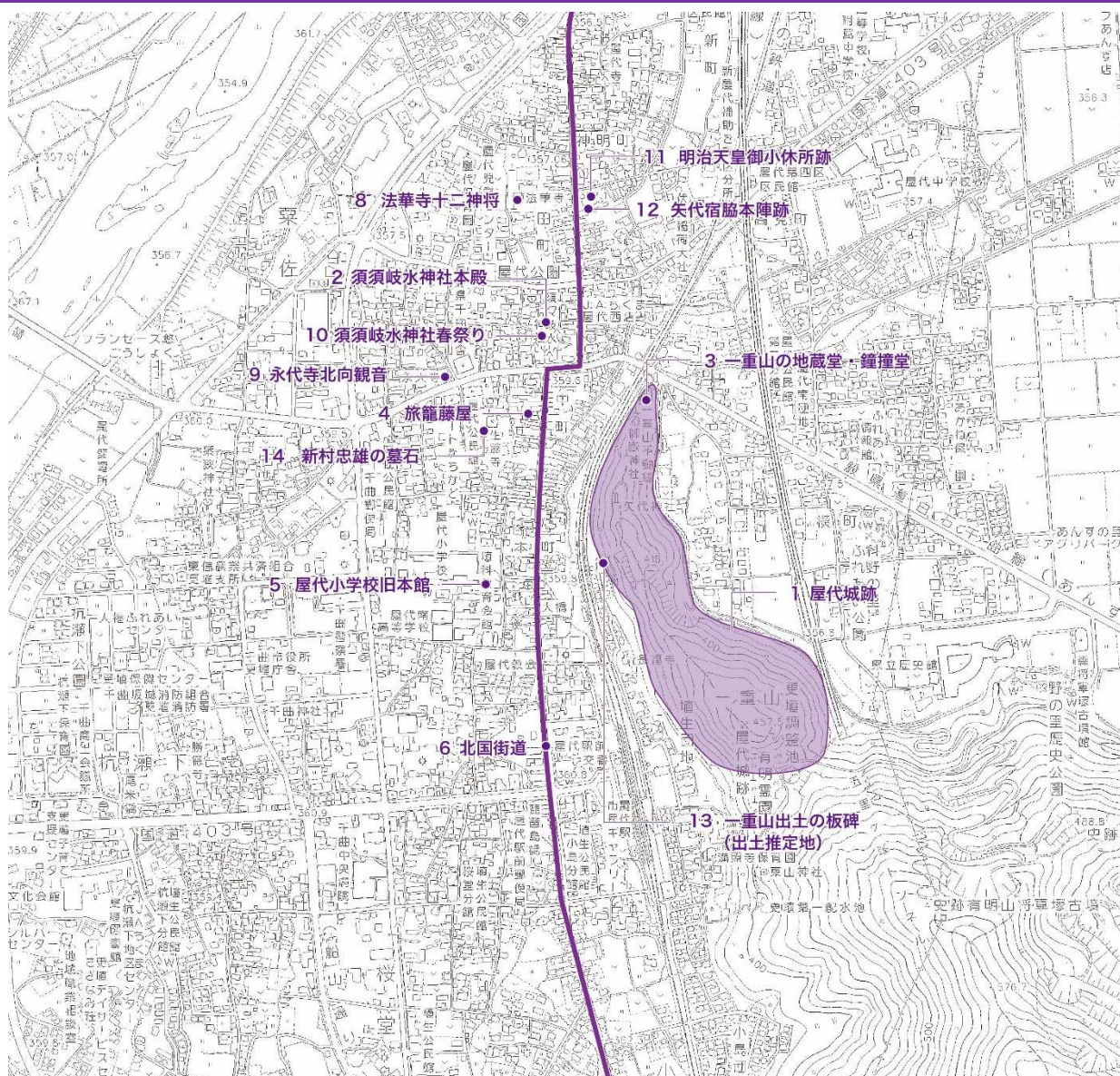


11 明治天皇御小休所跡



13 一重山出土の板碑

構成文化財の位置



※7 「屋代家文書」ほか一括 13 一重山出土の板碑 歴史文化財センター所蔵

関連文化財群の課題

- ・矢代宿周辺に関する文化財（古文書・歴史資料）が散逸の危機にある。
- ・屋代城跡は雑木が繁茂し、説明板も老朽化しているため、整備が必要である。
- ・屋代小学校旧本館が老朽化している。
- ・地域の歴史団体が高齢化している。新たな市民団体も設立され、後方支援が急がれる。

関連文化財群の方針

- ・矢代宿周辺に関する文化財（古文書・歴史資料）を把握する。
- ・屋代城跡の整備に協力する。
- ・屋代小学校旧本館を改修する。
- ・地域団体の活動を支援する。

関連文化財群の措置

事業番号	事業名	取組主体				計画期間		
		市	所有者	地域等	専門家	前期 R5 ～8	後期 R9 ～12	長期
措置3 (再掲)	未指定文化財詳細調査 一重山出土の板碑等 調査を実施し、指定へとつなげる。	◎	○	○	○			
措置4 (再掲)	自治体誌掲載史料調査 史料散逸防止のために早期に実態の把握調査実施。	◎	○	○	◎			
措置16 (再掲)	屋代小学校旧本館の改修 重点措置 老朽化が著しく、耐震性も極めて低い。 有効な建物活用を検討したのち、修理を実施する。	◎		◎	○			
措置18 (再掲)	説明板の新設・更新と文化財管理の推進（市指定） 屋代城説明板の更新。管理団体に管理謝金交付。	○	◎	◎	○			
措置29 (再掲)	学校の郷土資料室整理・資料の活用 屋代小学校旧本館の所蔵資料について児童や住民と清掃整理を行う。	◎		◎	○			
措置38 (再掲)	協働事業の協力・地域づくりでのアドバイザー協力 重点措置 協働事業の協力・地域づくり計画に、アドバイザーとして協力し、 市民による自主的な文化財保護の機運醸成に努める。	◎	○	◎	○			
措置40 (再掲)	市民と協働した文化財調査の実施 一重山 市民と協力して実態を把握する。	◎	◎	◎	○			

地域型 関連文化財群 ストーリーC

善光寺道と稲荷山・八幡をめぐる文化財群

ストーリー

二つの街道とともに

概要

桑原、八幡、稲荷山の各地区は、善光寺道、「一本松峠道」といった主要街道が通過する川西地区の要衝である。善光寺道沿いには、茶屋跡群や一里塚など往時をしのぶ遺構が残されている。峠の麓の桑原地区や稲荷山地区には、街道の宿場町や商家町として発展した街並みが今も残り、賑わいの中で継承された大頭祭をはじめとする行事は今も人びとの絆をはぐくんでいる。各地区には、街道とともに繁栄したことを示す文化財が数多く所在する。

善光寺道と桑原・稲荷山

猿ヶ馬場峠から中原、桑原、稲荷山に至る一帯は、古墳時代には塚穴古墳や一本松古墳、戦国時代には小坂城跡や竜王城跡、佐野（山）城跡が構築されるなど、古代・中世を通じて交通上重要な位置にあったとみられる。

善光寺道は、中山道の洗馬宿（塩尻市）で分かれ、篠ノ井の追分で北国街道に接続する。中山道と北国街道を結び、江戸時代のメインルートの一つである。慶長19年（1614）、松本城主であった小笠原秀政によって中山道と麻績との間で宿駅制度が整備され、猿ヶ馬場峠を越えて、桑原や稲荷山と結ばれたことで成立した。洗馬から善光寺へは約80kmの道のりで、善光寺参りや伊勢参りに向かう人びとで賑わった。峠の麓の中原地区、桑原地区までの山中には、当時の古道や、『善光寺道名所図絵』に描かれた江戸時代から明治時代にかけての茶屋跡（火打茶屋や松崎茶屋）、一里塚が所在する。

麓の中原地区には、江戸時代末期に建築された酒蔵や貯蔵所、文庫蔵などの建物群が立ち並び長野銘醸が所在し、造り酒屋の雰囲気漂う。また、この地区には広く更級郡内に伝わった代々神楽がある（中原神楽）。中原を下った桑原宿は、猿ヶ馬場峠を越えた麻績宿と稲荷山宿との間に設けられた間の宿で、寛永元年（1624）に伝馬屋敷が設置された。道沿いには、江戸時代の宿場の面影を残す建物と養蚕民家が混在する。幕末には、佐久間象山が京都に向かう途中、桑原宿の関家（伴月楼）で一泊している。

稲荷山宿は、善光寺道の宿場町で、弘化4年（1847）の善光寺地震とその火災により大きな被害を受けた。復興を遂げたのち、明治時代から大正時代にかけて、生糸や繊維製品が集まる北信濃有数の商都として繁栄した。町の中央を街道が貫き、中ほどが「鍵の手」となっている。現在残る建物は、すべて弘化4年（1847）の震災後の建築である。重厚な主屋や茅葺きの建物、漆喰塗の土蔵が併存し、多様な形式の建物が町並みを形成している（稲荷山伝統的建造物群保存地区）。また、江戸時代からの水路や土地の地割を良く残しており、街道に面した敷地は短冊形をなしている。江戸時代の中期に始まった勇壮な稲荷山祇園祭は毎年7月に執り行われる。

一本松峠と八幡

「一本松峠道」は一本松峠から、大池、姨捨の棚田、八幡の集落を通り、稲荷山宿で善光寺道に合流する道である。その成立は定かではないが戦国時代頃には、すでに街道としての役割を果たしていたとみられる。

麓の八幡地区は、平安時代の『和名類聚抄』に記載される「更級郡小谷郷」に比定される川西地区の中心的地域である。地区の中央には延喜式内社武水別神社が鎮座し、「お八幡さん」の名で親しまれる。神社の社叢に神主館の松田家と神宮寺跡が近接し、旅館や料理屋・飲食店などの町家が軒を並べるなど、宗教的空間が形成されている。新嘗祭である武水別神社頭人行事（大頭祭）は、400年間一度も中断することなく現在に引き継がれる。

構成文化財とその概要			
1 善光寺道	国選定	遺 跡	松本盆地から長野盆地へ抜ける街道。猿ヶ馬場峠、桑原宿、稲荷山宿を経て篠ノ井追分で北国街道に合流する。
2 火打茶屋	国選定	遺 跡	『善光寺道名所図会』に記された茶屋跡。
3 松崎茶屋	国選定	遺 跡	江戸時代から明治時代の茶屋跡。石積みと街道跡が良く残る。
4 一里塚	国選定	遺 跡	千曲市に唯一現存する一里塚。
5 廻国供養塔 かいこくくようとう	国選定	遺 跡	江戸時代に建てられた巡礼者の供養塔。八幡の浦澤氏建立。
6 中原神楽	未指定	民 俗	中原に伝わる神楽。安永8年に大頭祭で奉納した記録が残る。
7 長野銘醸	国登録	建造物	江戸時代から続く造り酒屋。銘酒「姨捨正宗」で知られる。
8 伴月楼	未指定	建造物	江戸時代末期の武家屋敷。主屋・長屋門などが残る。
9 桑原宿	未指定	伝建群	善光寺道麓の宿場町。現在でも宿場の面影を残す。
10 矢崎山 経 塚 や さきやまきょうづか	包蔵地	遺 跡	八幡地区矢崎山の経塚。素焼きの経筒外容器2点が採集された。
11 塚穴古墳	市史跡	遺 跡	稲荷山地区の山腹に築かれた直径15mの円墳。6世紀～7世紀。
12 稲荷山伝統的 建造物群保存地区	国選定	伝建群	江戸時代に宿場町として成立し、明治時代以降、商家町として栄えた。
13 稲荷山祇園祭	市無形民俗	民 俗	7月中旬の3日間、神輿の巡行や勇獅子のお練り、山車や稚児行列が盛大に催される。
14 木造愛染明王坐像	重要文化財	彫 刻	寛文13年(1673)、京都仏師久七の作。鎌倉時代の作風にならった江戸時代の秀作とされる。
15 武水別神社 頭人行事(大頭祭)	国選択	民 俗	新嘗祭である大頭祭は、約400年間続く祭事として、記録作成の措置を講ずべき無形の民俗文化財に選定。
16 社宮司遺跡出土 木造六角宝幢	県 宝	考古資料	平安時代末期の木製仏塔であり、全国唯一の出土。
17 霊諍山石仏	未指定	彫 刻	八幡地区大雲寺の裏山に石仏・石神・文字碑・石祠など約130基が建てられている。
18 小坂城跡	市史跡	遺 跡	龍洞院の裏山の山城。小笠原軍と上杉軍の戦闘の舞台。
19 竜王城跡	包蔵地	遺 跡	桑原地区の山城。小笠原軍と上杉軍の戦闘の舞台。
20 佐野(山)城跡	包蔵地	遺 跡	桑原地区の山城。小笠原軍と上杉軍の戦闘の舞台。
21 大池の百八灯	市無形民俗	民 俗	小松姫の遺徳を偲び、8月16日に108の灯火で供養を行う。

主な構成文化財の写真



1 善光寺道



6 中原神楽



7 長野銘醸



8 伴月楼



9 桑原宿



11 塚穴古墳



12 稲荷山伝統的建造物群保存地区



13 稲荷山祇園祭



15 武水別神社頭人行事(大頭祭)



17 霊静山石仏



18 小坂城跡



21 大池の百八灯

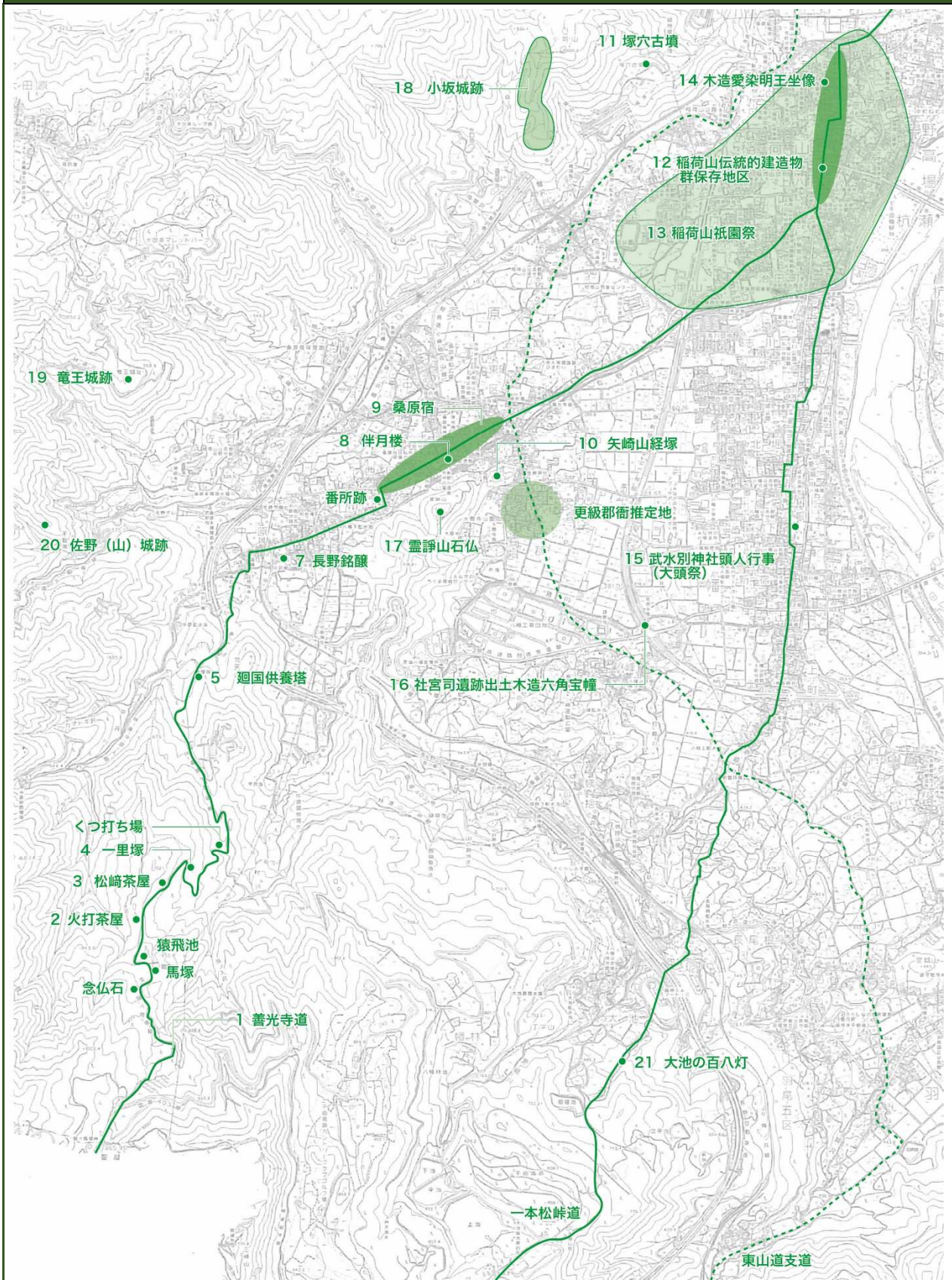


14 木造愛染明王坐像



16 社宮司遺跡出土木造六角宝幢

構成文化財の位置



関連文化財群の課題

- ・街道や稲荷山、八幡といった重要地域の資料が散逸の危機にある。
- ・小坂城跡の登山道が荒れており、整備が必要である。
- ・日本遺産で通行者の通過が予想されるため、善光寺道の保存状況把握と整備が必要である。
- ・稲荷山伝統的建造物群保存地区の建物修理が急がれる。
- ・地域の活動団体の支援が急がれる。

関連文化財群の方針

- ・地域に関する資料を把握する。
- ・小坂城跡の整備を支援する。・善光寺道の実態を把握する。
- ・稲荷山伝統的建造物群保存地区の修理事業を推進する。
- ・地域団体の活動を支援する。

関連文化財群の措置

事業番号	事業名	取組主体				計画期間		
		市	所有者	地域等	専門家	前期 R5 ～8	後期 R9 ～12	長期
措置3 (再掲)	未指定文化財詳細調査 現況記録作成調査を実施し、指定へとつなげる。	◎	○	○	○			
措置4 (再掲)	自治体誌掲載史料調査 重点措置 史料散逸防止のために早期に実態の把握調査実施。	◎	○	○	◎			
措置5 (再掲)	善光寺道詳細調査 松崎茶屋等の確認調査、関連資料の情報収集。	◎	○	○	○			
措置10 (再掲)	(仮称)稲荷山伝統的建造物群保存地区整備計画の策定 稲荷山地区の街並み整備に進めるための計画策定。 重点措置	◎	◎	○	◎			
措置11 (再掲)	稲荷山伝統的建造物群保存地区の整備 保存地区内の建物等の修理、修景を推進する。	◎	○	○	○			
措置14 (再掲)	説明板の新設・更新と文化財管理の推進(国・県指定等) 武水別神社 説明板の更新。	○	◎	◎	○			
措置18 (再掲)	説明板の新設・更新と文化財管理の推進(市指定) 老朽化した説明板を更新、未設置案内板の新規設置、団体の支援	○	◎	◎	○			
措置34 (再掲)	日本遺産を利用した各種事業 重点措置 信州千曲観光局と連携したツアーの実施や地域団体との協力。	◎	○	◎				
措置38 (再掲)	協働事業の協力・地域づくりでのアドバイザー協力 小坂城跡・善光寺道 市民と協力して、整備を行う。 重点措置	◎	○	◎	○			
措置40 (再掲)	市民と協働した文化財調査の実施 市民と協力し、善光寺道、一本松峠道など古道の実態を把握する。	◎	◎	◎	○			

地域型 関連文化財群 ストーリーD

ちくまかはん
千曲河畔をめぐる文化財群

ストーリー

千曲川沿いの低地の人々の営み

概要

千曲河畔に位置する磯部地区から中地区にかけての沖積地では、中洲上の微高地に集落を作り、営みを進めてきた。洪水と闘いながらも徐々に堤防を築き、被害から守る努力が続けられてきた結果、現在、安定した住宅地を形成している。一方で、東側の山際は、北国街道が通る要衝でもあったため、上戸倉宿や下戸倉宿といった宿場町がもうけられた。千曲河畔の集落には、こうした繁栄を伝える文化財が数多く所在する。

北国街道と祭り

当地域は、古代船山郷の比定地にあり、南北朝時代には船山守護所が設置される重要な位置にあった。こうした地域を通過する北国街道が、江戸時代に成立する。東側の山際を通過し、戸倉地区には上・下戸倉宿が設けられた。

上戸倉宿は、市域で最も南に位置する宿場で、隣の坂木宿との間には難所「横吹坂」が控えていた。鍵の手状の道形状に当時の面影が残る。瀧澤家住宅は、上戸倉宿に近い福井地区に位置する。江戸時代に現在の場所に居を構え、組頭などを務めてきた。茅葺き屋根の主屋や長屋門からなる屋敷構えは、街道周辺の民家の姿を今に伝える。

下戸倉宿は、本陣を柳沢家が勤め、明治11年(1878)の明治天皇の北陸・東海道巡幸では同宅に小休所が設けられた(明治天皇行在所跡)。宿場中央付近にある茅葺の建物は、江戸時代から続く造り酒屋「坂井銘醸」である。茅葺屋根、角屋上の屋敷、式台等に当地における江戸時代中期の名主家の権威や格式を良く残す。下戸倉宿付近は、北国街道と同じルートを国道18号線が通過している。数は少ないものの古い建物が立ち並び、賑わいを今に伝える。

水上布奈山神社は、慶長8年(1603)に北国街道の宿場である下戸倉宿が設置された際に、その鎮守として諏訪大社を勧請して創建されたと伝えられている。現在の本殿は、寛政元年(1789)に諏訪の宮大工柴宮長左衛門矩重によって建てられた。境内の石灯籠(飯盛女の献燈)は宿場の飯盛女が寄進したもので、宿場の繁栄を物語る。

水上布奈山神社の御柱祭は、諏訪大社と同様に行われ、祭りの記録から、江戸時代後期にはすでに執り行われていた。2本の御柱は、戸倉地区の山林から赤松の大木を切り出し、地区内を曳行したのち、境内に建てられる。

千曲川の洪水と温泉

千曲川に近い集落では、江戸時代まで洪水による家屋や田畑の流亡、河道の変化が繰り返された。上徳間の伊勢社は千曲川の洪水により度々社殿が流亡しており、現在の社殿は文久3年(1863)の再建である。点在する微高地上の共同墓地は洪水による流失を防ぐため、盛土や石垣でかさ上げした上に墓地が作られたものである。万治峠や宮坂峠などの峠道は、洪水や河道の変化の影響を受けないため、集落間を結ぶ重要な役割を果たしていた。

明治時代以後、鉄道の開通による宿場の衰退を憂いた坂井量之助らにより温泉の開削が取り組みられ、戸倉温泉と上山田温泉がそれぞれ開湯した。その後も洪水による源泉の流失が相次いだ。大正時代に「内務省堤防」が完成したことで洪水の被害が激減し、千曲川左岸に温泉街が形成されるようになった。千曲川の右岸にも新戸倉温泉が、昭和17年(1942)に開湯し、昭和35年(1960)には白鳥園の前身である温泉施設「戸倉上山田ヘルスセンター」が開業するなど、温泉地としての賑わいをみせた。岡本太郎彫刻(『無籍動物』)はこの開園に伴って設置されたものである。戸倉町駅前と国道18号線沿い、新戸倉温泉周辺は、街道の宿場町を基盤として、鉄道の開通や、温泉の開湯、洪水の減少により、市街地の景観が形成され、戸倉地区の中核的エリアとなった。

構成文化財とその概要			
1 北国街道	未指定	遺 跡	越後や北陸と江戸を結ぶ主要街道。宿場町特有の短冊状地割が残る。
2 上戸倉宿	未指定	伝健群	北国街道の宿場町、鍵の手状の道が残る。
3 瀧澤家住宅	国登録	建造物	福井地区の山際に立つ。江戸時代の民家建築。
4 下戸倉宿	未指定	伝健群	北国街道の宿場町、現在の国道 18 号線と同ルートを通った。
5 坂井銘醸	国登録	建造物	下戸倉宿にある造り酒屋で、宝暦 10 年(1760)頃に建てられた茅葺の主屋が残る。
6 明治天皇行在所跡	未指定	遺 跡	明治 11 年 (1878)、明治天皇が北陸・東海へ巡幸した際に、下戸倉宿の日本陣で休息をとった。
7 水上布奈山神社本殿	重要文化財	建造物	寛政元年(1789)に諏訪の大工棟梁柴宮長左衛門矩重により造替られた。精巧な彫刻が施される。
8 水上布奈山神社の御柱祭	市無形民俗	民 俗	7 年に一度開催される。最も古い記録は天保 13 年 (1842)。
9 飯盛女の献燈	市有形	彫 刻	上戸倉宿の飯盛女が寄進したもの。
10 船山守護所推定地	未指定	遺 跡	南北朝時代、船山郷に置かれた信濃国の軍政の拠点。
11 上徳間の伊勢社	未指定	建造物	千曲川の洪水により度々社殿が流亡した。現在の社殿は文久 3 年 (1863) の再建。
12 聖観音菩薩坐像	県 宝	彫 刻	戸隠神社の本地仏として鎌倉時代後期に造立された。廃仏毀釈により流出し、明治 20 年(1887)に長泉寺へと移された。
13 木造薬師如来坐像	市有形	彫 刻	はくがんじ 柏岩寺境内の薬師堂に安置。
14 万治峠	未指定	遺 跡	八王子山を越えて若宮地区と上山田地区を結ぶ峠道。
15 宮坂峠	未指定	遺 跡	柏王地区と森地区を結ぶ峠道。
16 内務省堤防	未指定	建造物	大正 7 年 (1918) から始まった千曲川の改修工事により完成。戸倉上山田温泉の発展に大きく寄与した。
17 微高地上の共同墓地	未指定	文化的景観	この地域の共同墓地は、土を盛り上げた微高地に造られることが多い。千曲川の水害対策とみられる。
18 埴科幹線用水	未指定	建造物	屋代田んぼに配水するための用水路、千曲川から引水。
19 天皇子神社のケヤキ	市天然記念物	植 物	長野県内有数のケヤキの大木。沖積地では珍しい。
20 柏王の大力シワ	市天然記念物	植 物	柏王地区の山腹にある。推定樹齢 300 年。
21 天狗のマツ	市天然記念物	植 物	じざいさんじんじゃ 宮坂峠道脇に位置する自在山神社神木。推定樹齢 400 年。
22 新戸倉温泉	未指定	文化的景観	千曲川右岸の温泉街。昭和 17 年 (1942) に開湯。
23 白鳥園の岡本太郎彫刻	未指定	彫 刻	白鳥園建設時に製作された。岡本太郎が、絵画から彫刻に転身する契機となった重要な作品。

主な構成文化財の写真



3 瀧澤家住宅



5 坂井銘醸



7 水上布奈山神社本殿



8 水上布奈山神社の御柱祭



11 上徳間の伊勢社



12 聖観音菩薩坐像



14 万治峠



15 宮坂峠



16 内務省堤防



17 微高地上の共同墓地



18 埴科幹線用水



23 白鳥園の岡本太郎彫刻



19 天皇子神社のケヤキ

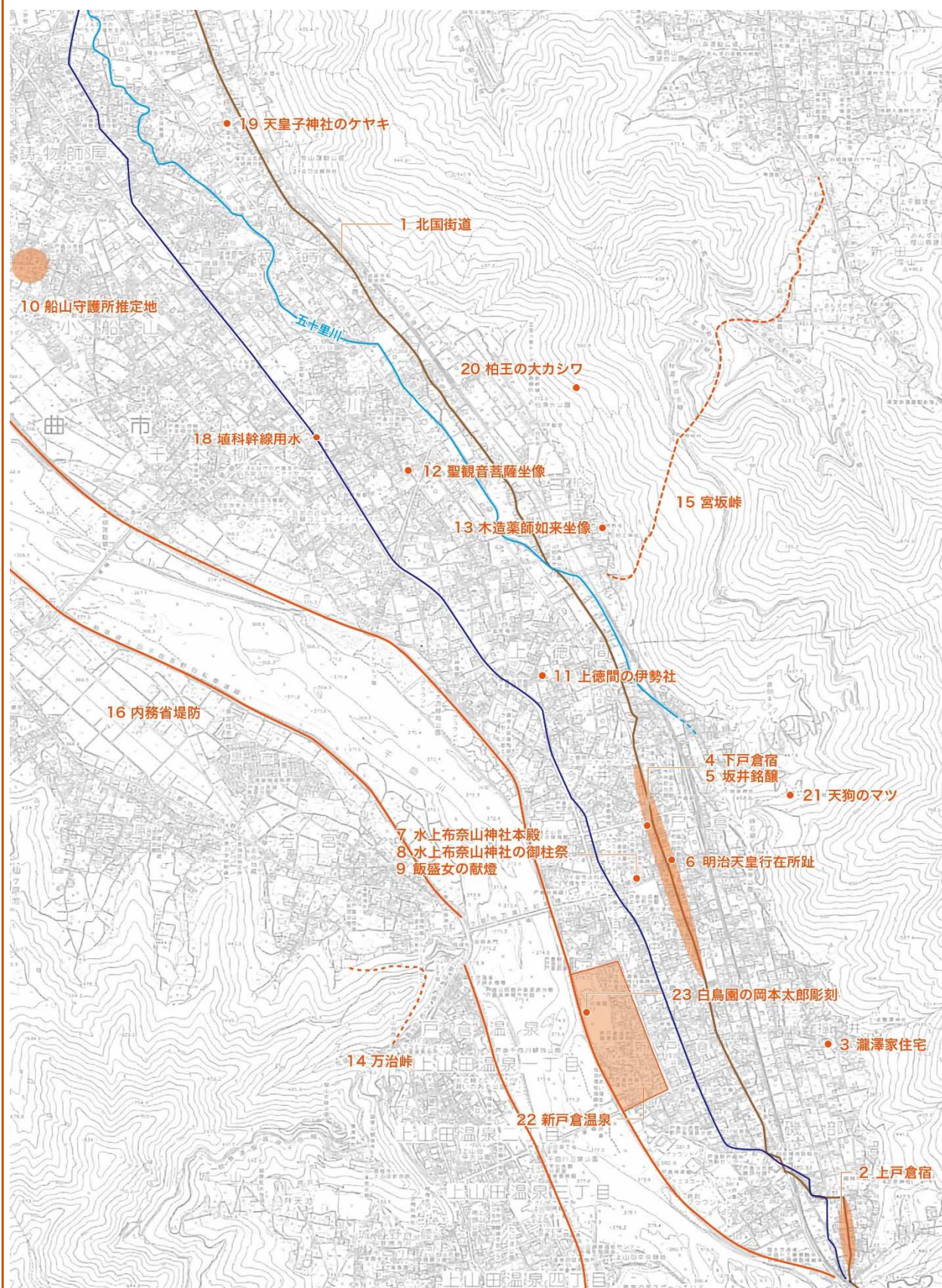


20 柏王の大カシワ



21 天狗のマツ

構成文化財の位置



17 微高地上の共同墓地 多数あるため、地図に落としていない。

関連文化財群の課題

- ・千曲河畔や千曲川の漁労、水防に関する文化財（古文書・歴史資料）が散逸の危機にある。
- ・坂井銘醸などの登録有形文化財の老朽化が危惧される。
- ・地域の文化財の周知が十分ではない。
- ・地域の歴史団体が高齢化しており、支援が急がれる。

関連文化財群の方針

- ・千曲河畔や千曲川の漁労、水防に関する文化財（古文書・歴史資料）を把握する。
- ・登録有形文化財の修理を支援する。
- ・文化財を知ってもらうための取り組みを進める。
- ・地域団体の活動を支援する。

関連文化財群の措置

事業番号	事業名	取組主体				計画期間		
		市	所有者	地域等	専門家	前期 R5 ～8	後期 R9 ～12	長期
措置3 (再掲)	未指定文化財詳細調査 現況記録作成調査を実施し、指定へとつなげる。	◎	○	○	○			
措置4 (再掲)	自治体誌掲載史料調査 重点措置 史料散逸防止のために早期に実態の把握調査実施。	◎	○	○	◎			
措置18 (再掲)	説明板の新設・更新と文化財管理の推進（市指定） 柏王の大カシワ・中山古墳 老朽化案内板を更新、未設置案内板の新規設置、管理団体に管理謝金交付を促進。	○	◎	◎	○			
措置20 (再掲)	登録有形文化財の修理支援 坂井銘醸・寿高原食品四階倉庫・瀧澤家住宅 災害時の修理や小規模修理を中心に修理支援を推進。	○	◎	○	◎			
措置38 (再掲)	協働事業の協力・地域づくりでのアドバイザー協力 市民団体と協力して文化財の継承活動を推進する。 重点措置	◎	○	◎	○			
措置40 (再掲)	市民と協働した文化財調査の実施 市民と協力して地区内の古文書などの実態を把握する。	◎	◎	◎	○			

地域型 関連文化財群 ストーリーE

さらしな
更級の里をめぐる文化財群

ストーリー

「さらしな」の誇りとともに生きる

概要

若宮地区から羽尾、須坂地区にかけての更級地域一帯は、冠着山麓に立地し、「更級の里」とも呼ばれる。地域の人びとは、古代から月の名所「さらしな」と稗老説話「おぼすて山」という二つの歴史的地名の伝承が伝わる地域であることを誇りに思い、地域の営みを進めてきた。更級地区には、その名にふさわしい集落景観が広がり、伝承に彩られた冠着山とともに人々が営みを進めてきたことを示す文化財が存在する。

更級（姨捨山）の名月

更級地区における人々の営みは縄文時代から確認できる。円光房遺跡は、縄文時代後晩期の集落遺跡で、東北地方の影響を受けた縄文時代晩期の土器群が出土している。奈良時代になると、冠着山裾の古峠を越えて、信濃国から都に通じる「東山道支道」が成立した。ここを通る旅人にとって、冠着山はランドマークであり、照る月を仰ぎ見て都から遠く離れた心情を和歌に詠んだとみられる。この地に伝わる月の美しさが都人に伝わり、更級郡一帯は憧れの地として月の名所になっていった。『古今和歌集』に詠われた「我が心慰めかねつ更級や姨捨山に照る月を見て」（読み人知らず）は、「更級」や「姨捨山」が登場する最古の歌である。

稗老説話「おぼすて山」と信仰

冠着山はまたの名を姨捨山とよび、稗老説話「おぼすて山」の舞台となっている。この話は仏教圏に共通する親孝行を説く説話である。平安時代に都人によってアレンジされ、『大和物語』に書かれたことで有名になった。奈良時代の歴史書『続日本紀』には、「更級郡の建部大垣という人物が親孝行だったため、税を一生免除された」と書かれており、都から遠く離れた地でのこうした出来事や、地名の響き、雰囲気組み合わせ、稗老説話「おぼすて山」の舞台に選ばれたとみられる。平安時代の後期から中世にかけ、説話を背景に、冠着山は山岳信仰の山に変化した。山腹には、坊城平など山岳寺院の所在が示唆される地名が残り、扇平地区からは埋納されたものと推定される密教法具一式が採集されている（扇平採集の密教宝具）。羽尾地区に所在する明徳寺は、徳治2年（1307）の開基、天文年間（1532－1555）の再建と伝わる真言宗の古刹である。境内には、樹齢700年を超えるとされる明徳寺の大スギも残る。

また、冠着山頂にある冠着神社には月の神、月読尊をはじめとする神々が祀られ、毎年7月下旬に地元の人びとが祭事を行う。麓には、延喜式内社である佐良志奈神社をはじめ、いくつかの神社が鎮座する。

「更級村」の誕生と冠着山の復権運動

明治時代になると、地区の上方における冠着トンネルの貫通や篠ノ井線の建設、新たな村道の開削など地域の近代化が進んだ。明治22年（1889）には、若宮、須坂、羽尾の3つの村が合併することになり、歴史的地名から「更級村」の名称が採用された。初代村長の塚田小右衛門雅丈は、本来の姨捨山は長楽寺周辺ではなく冠着山であることを主張し、これを広めるための冠着山の復権運動に取り組んだ。その一環として、麓の郷嶺山に冠着山をあおぎみる遥拝殿と観月殿がつくられた。さらに、冠着山の山容が美しく見える稲荷山の表通り、坂城町の荻屋原、麻績村の街道沿いの3箇所に冠着山遥拝所が設置され、姨捨山や田毎の月に関する歌など刻んだ石碑が建てられた。現在、国土地理院の地形図に「冠着山（姨捨山）」と記されているのは、復権運動の結果である。

構成文化財とその概要			
1 冠着山	未指定	名勝地	更級地区のシンボル。姨捨伝説の舞台。
2 地滑り地形	未指定	名勝地	三峯山の山体崩壊に伴う、地滑り地形。
3 円光房遺跡	包蔵地	遺 跡	縄文時代後晩期を中心とした集落遺跡。
4 人面付小型深鉢土器	市有形	考古資料	縄文時代晩期前半の所産と推定。 土器の表面に先端の曲がった長い鼻の人面が表される。
5 明徳寺	未指定	建造物	徳治2年(1307)の開基、天文年間(1532-1555)の再建と伝わる真言宗の古刹である。冠着山信仰との関連が示唆される。
6 明徳寺の大スギ	市天然記念物	植 物	伝承によると推定樹齢は700年を数える大木。
7 冠着神社	未指定	建造物	宝暦4年(1754)、冠着山の山頂に社殿が建てられた。 月読命が祀られる。
8 佐良志奈神社	未指定	建造物	延喜式内社。当初は八王子山にあったが、仁和3年(887)の地震で崩落し、麓の若宮八幡宮に合祀したと伝わる。
9 大滝社	未指定	建造物	地元の人々に「権現さま」と呼ばれ尊崇される。祭神は伊弉冉命。
10 冠着トンネル	未指定	建造物	明治32年(1899)に難工事を経て開通した篠ノ井線の鉄道トンネル。全長2,656mで、開通当初は日本で最長のトンネルであった。
11 薬師堂	未指定	建造物	当初は七堂伽藍を備えた寺であったと伝わる。天文年中(1532-1555)に焼亡後、まもなく再建されたとされる。
12 瘡守稲荷神社	未指定	建造物	天正年間(1573-92)頃、宮守りの羽尾筑前が稲荷大明神に祈願して戦傷を癒したことから瘡守稲荷と呼ばれるようになった。
13 観月殿	未指定	名勝地	明治24年(1891)羽尾地区の有志が郷嶺山に冠着神社の里宮を開き、観月殿とした。
14 扇平採集の密教法具	未指定	考古資料	扇平から採集された平安時代の密教法具。遺存状態は極めて良好。
15 郷嶺山	未指定	文化的景観	扇状地の中央に位置する独立山。
16 更級村文書	未指定	古文書	更級村の役場文書。近世から近代の村の歴史が記される。
17 細形銅剣	県 宝	考古資料	江戸時代末期、若宮の箭塚遺跡より出土。弥生時代中期の所産 東日本における青銅器埋納の一例とみられ、集目される。
18 坊城平	未指定	遺 跡	地名から山岳寺院の跡との伝承が残る。

構成文化財の写真



1 冠着山



3 円光房遺跡



4 人面付小型深鉢土器



5 明徳寺



6 明徳寺の大スギ



7 冠着神社



8 佐良志奈神社



9 大滝社



10 冠着トンネル



11 薬師堂



13 観月殿

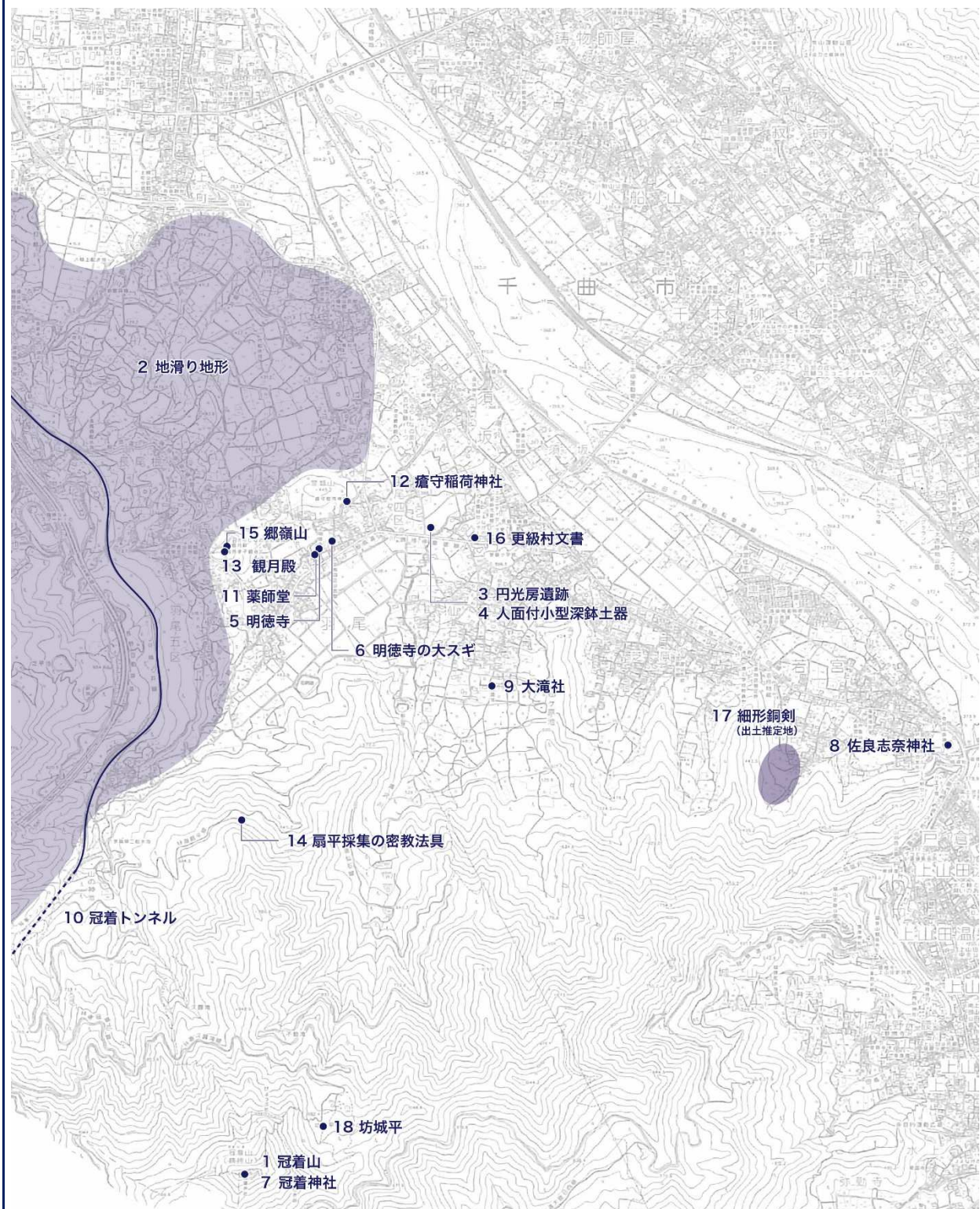


14 扇平採集の密教法具



17 細形銅剣

構成文化財の位置



- | | |
|--------------|--------------------------|
| 4 人面付小型深鉢土器 | さらしなの里歴史資料館所蔵 |
| 14 扇平採集の密教法具 | さらしなの里歴史資料館保管（明徳寺寄託品） |
| 16 更級村文書 | 歴史文化財センター所蔵 |
| 17 細形銅剣 | さらしなの里歴史資料館保管（佐良志奈神社寄託品） |

関連文化財群の課題

- ・更級地域の文化財（古文書・歴史資料）が散逸の危機にある。
- ・地域の文化財の周知が十分ではない。
- ・さらしなの里歴史資料館は展示施設等が老朽化しており、近年の学術成果に基づく地域の歴史を正しく知ることができない。
- ・地域の活動団体の支援が急がれる。

関連文化財群の方針

- ・更級地域の文化財（古文書・歴史資料）の調査をおこなう。
- ・地域の文化財の周知を進める。
- ・さらしなの里歴史資料館の展示を見直す。
- ・地域団体の活動を支援する。

関連文化財群の措置

事業番号	事業名	取組主体				計画期間		
		市	所有者	地域等	専門家	前期 R5 ～8	後期 R9 ～12	長期
措置3 (再掲)	未指定文化財詳細調査 更級村文書 調査を実施し、指定へとつなげる。	◎	○	○	○			
措置4 (再掲)	自治体誌掲載史料調査 重点措置 史料散逸防止のために早期に実態の把握調査実施。	◎	○	○	◎			
措置7 (再掲)	冠着山総合調査 民俗、地質、植物、考古、文献による将来的な総合調査実施体制の実施の方策を研究する。	◎	○	○	◎			
措置18 (再掲)	説明板の新設・更新と文化財管理の推進（市指定） 管理団体に管理謝金交付を促進。	○	◎	◎	○			
措置34 (再掲)	日本遺産を利用した各種事業 重点措置 信州千曲観光局と連携したツアーの実施や地域団体との協力。	◎	○	◎				
措置38 (再掲)	協働事業の協力・地域づくりでのアドバイザー協力 市民団体と協力して文化財の継承活動を推進する。 重点措置	◎	○	◎	○			
措置40 (再掲)	市民と協働した文化財調査の実施 市民団体と協力して冠着山、更級地区の文書の実態を把握する。	◎	◎	◎	○			
措置48 (再掲)	さらしなの里歴史資料館・古代体験パークの改修 復元住居の修理をすすめ、展示室のリニューアルを検討する。	◎		○	○			

地域型 関連文化財群 ストーリーF

ようさん はな
養蚕と花をめぐる文化財群

ストーリー

創意工夫の営み

概要

力石地区は、千曲市の南端に位置し、千曲川が形成した沖積地の微高地に立地する。江戸時代後期から養蚕が盛んになり、明治時代後半には蚕種製造が広く行われた。昭和前半からは、蚕種製造で培った品種改良の技術をもとに、花きの栽培が進められた。地区内には、蚕糸業の繁栄を伝える気抜き屋根のある養蚕民家や蚕種貯蔵庫を持つ民家が数多く残り、その周囲には花きのビニールハウスが立ち並び、特徴的な集落景観が広がる。創意工夫による産業の変遷を物語る文化財が集中して所在する。

沖積地の集落

力石地区は、千曲川が形成した自然堤防上に居住し、後背湿地で水稻栽培を行う千曲河畔の集落である。その地名は、清水神社境内に並ぶ巨石、「力石さん」に由来すると伝わる。当地には、弥生時代に稲作文化の担い手がいち早く定着した。力石条里遺跡群では、力石バイパス建設に伴う発掘調査で、弥生時代中期初めの再葬墓が見つっている。近世から近代を通じて発展を遂げ、花車屋台（立川和四郎作）や、集落中央に位置する如法寺の木造虚空蔵菩薩坐像は江戸時代から続く地区の歴史を伝える。明治時代には、学校設立の機運も高まった。六郷学校は、明治6年（1873）に開校し、松本市の開智学校や長野市川中島の作新学校（長野市）と並び、最も早く開校した学校である（六郷学校跡）。戦前には、青年団活動も活発に行われ、地域の団結を支えた（東郷平八郎直筆の青年団旗）。

千曲川左岸の田園地帯を流れる六ヶ郷用水は、灌漑面積約 310 ヘクタールの農業用水路である。武田信玄の下知状、上杉景勝当時の年貢賦課状などに「堰役」の記載が残されており、戦国時代にはその原形が開削されていたと考えられる。千曲川から取水し、網掛、上平、上五明、力石、新山、上山田の「六ヶ郷」の水田を灌漑し、今もなお、地域に豊かな実りをもたらしている。

蚕種業の展開

幕末から戦前の千曲市域では養蚕・蚕種業が展開したが、力石地区では、養蚕業とともに蚕の卵を採取し販売する蚕種業が盛行した。適切な産卵環境を整えるため、室内の温湿度調整を目的とした気抜き屋根をもつ木造瓦葺きの大型建物（養蚕民家）が建てられた。地区内には、幕末から明治時代の壮大な養蚕建物群が立ち並び、通りに面して長大な長屋門が連続するなど、蚕種業の繁栄を物語る特徴的な街並みが形成された。また、蚕種の出荷量や出荷時期を調整するための蚕種貯蔵庫も作られた。

花き栽培への転換

蚕糸業は、大正9年（1920）にピークを迎えたが、価格暴落や昭和恐慌、化学繊維の登場などで衰退していった。これに変わって取り組まれたのが花き栽培である。塚田耕治らによってはじめられ、昭和14年には花き組合が結成された。当初は菊やグラジオラス、ユリが露地栽培された。太平洋戦争で栽培が一時中断するが戦後に復活し、昭和25年（1950）頃には、日本で初めてトルコギキョウが営利栽培された。昭和30年代以降は、ビニールハウスの普及により施設栽培が普及していく。現在まで品種改良によって、新しいトルコギキョウが作り出されており、全国的に注目されている。集落の周囲には、花き栽培のビニールハウス群が立ち並び、当地特有の景観を見ることができる。

構成文化財とその概要			
1 養蚕民家群・ 蚕種貯蔵庫	未指定	伝健群	気抜き屋根のある養蚕民家や蚕種貯蔵庫を持つ民家が数多く残り、街並みを形成している。
2 力石条里遺跡群	包蔵地	遺 跡	弥生時代中期から古代の集落跡。平安時代から中世の水田跡が広範囲に検出された。弥生時代中期の再葬墓は特筆される。
3 六ヶ郷用水	未指定	建造物	起源は古代にまで遡るとされる。千曲川から取水し、網掛、上平、上五明、力石、新山、上山田の六ヶ郷を灌漑した。
4 力石さん	市有形	彫 刻	清水神社に安置され、力くらべに用いたとの伝説が残る。
5 六郷学校跡	未指定	遺 跡	明治6年(1873)開校。松本市の旧開智学校や長野市川中島の作新学校(長野市)と並び、最も早く開校した学校。
6 花車屋台 (立川和四郎作)	未指定	民 俗	弘化2年(1845)、立川和四郎の作。長期間分解されたままであったが、平成23年(2011)に地域住民により復元。
7 東郷平八郎直筆の 青年団旗	未指定	歴史資料	昭和初期、東郷平八郎宅に赴き、揮毫を依頼したと伝わる。
8 木造虚空蔵菩薩坐像	市有形	彫 刻	如法寺観音堂に安置される。一木造の古い手法により彫成。小像だが、地方作として珍しい。
9 花き栽培の ビニールハウス群	未指定	文化的景観	蚕糸業が衰退後、蚕種の品種改良の技術を生かした花き栽培が導入された。

主な構成文化財の写真



1 養蚕民家群・蚕種貯蔵庫



2 力石条里遺跡群



3 六ヶ郷用水



4 力石さん



5 六郷学校跡



7 東郷平八郎直筆の青年団旗

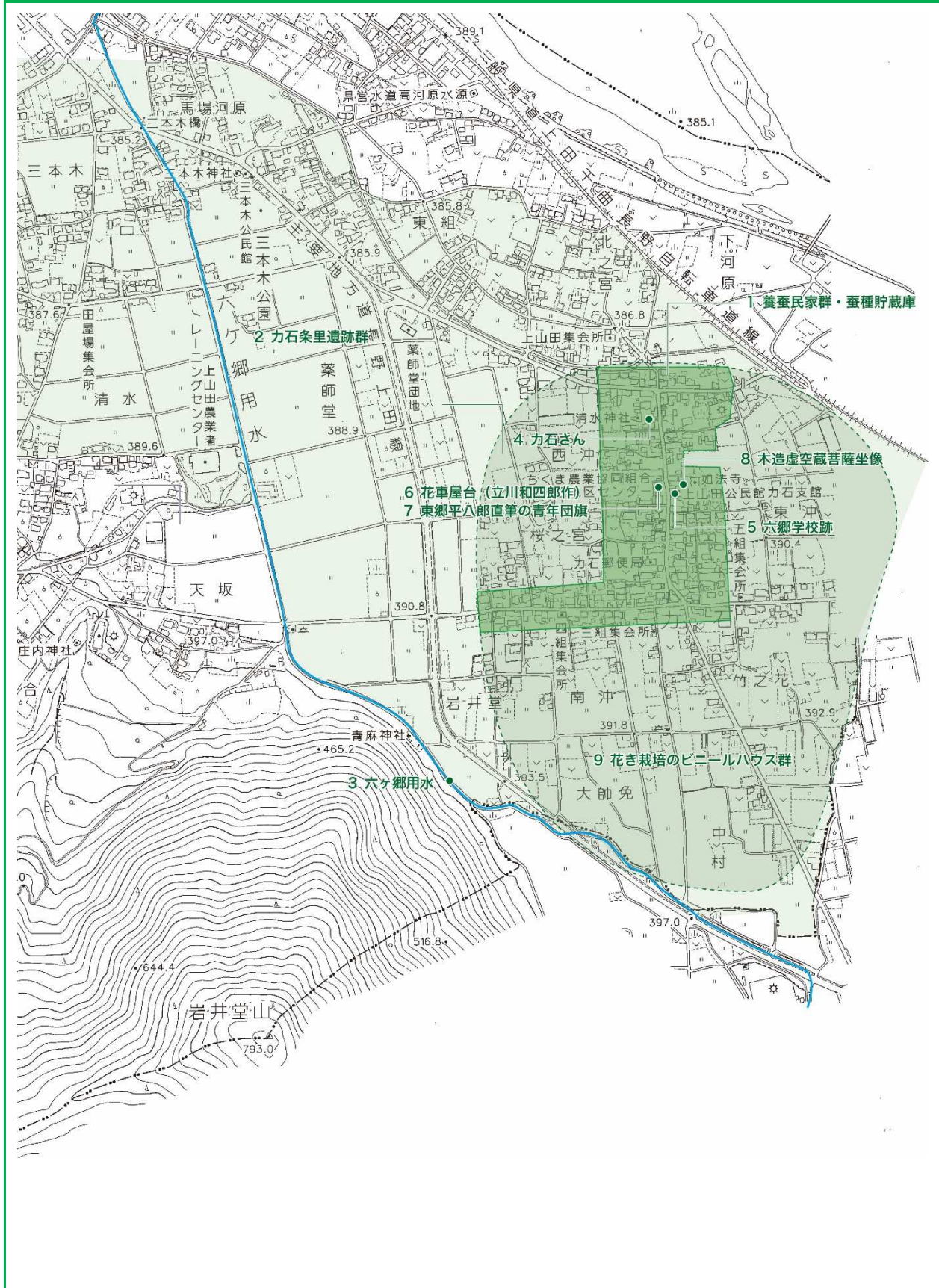


9 花き栽培のビニールハウス群



8 木造虚空蔵菩薩坐像

構成文化財の位置



関連文化財群の課題

- ・養蚕・蚕種関連資料が散逸の危機にある。
- ・養蚕民家が滅失の危機にある。
- ・地域の活動団体の支援が急がれる。

関連文化財群の方針

- ・養蚕・蚕種関連資料の調査を行う。
- ・養蚕民家について記録を作成する。
- ・地域の活動団体を支援する。

関連文化財群の措置

事業番号	事業名	取組主体				計画期間		
		市	所有者	地域等	専門家	前期 R5 ～8	後期 R9 ～12	長期
措置3 (再掲)	未指定文化財詳細調査 養蚕・蚕種関連資料の現況調査を実施し、指定へとつなげる。	◎	○	○	○			
措置4 (再掲)	自治体誌掲載史料調査 重点措置 史料散逸防止のために早期に実態の把握調査実施。	◎	○	○	◎			
措置18 (再掲)	説明板の新設・更新と管理の推進（市指定） 木造虚空蔵菩薩坐像 老朽化した標柱を更新する。	○	◎	◎	○			
措置19 (再掲)	登録の推進 養蚕民家の登録有形文化財登録を推進する。	◎	◎	○	◎			
措置38 (再掲)	協働事業の協力・地域づくりでのアドバイザー協力 市民団体の活動に協力する。 重点措置	◎	○	◎	○			
措置40 (再掲)	市民と協働した文化財調査の実施 市民と協力して力石地区の蚕種関連文書を把握する。	◎	◎	◎	○			

第9章 文化財の防災と防犯

第9章 文化財の防災と防犯

1. 災害史

(1) 風水害

千曲川流域は古代より幾度となく氾濫を繰り返してきた。とくに、屋代地区付近は、河道が大きく東曲する上に、河川勾配が緩やかになるため、地形上の特性から大きな被害が発生しやすい。

仁和の洪水 歴史書にも記される、もっとも大規模な千曲川流域の洪水として「仁和の洪水」が知られる。仁和3年（887）、八ヶ岳の山体崩壊によって千曲川の上流に河道閉塞が発生し、これによって形成された土砂ダムが仁和4年（888）5月に崩壊し、流域に大災害を引き起こしたもので、屋代地区の地下には30 cmから数mの砂層が残されている。

戌の満水 江戸時代にも、千曲川の洪水の記録が残されている。寛保2年（1742）の洪水は「戌の満水」と呼ばれる大規模な洪水で、「矢代以南残らず浸水、死者1,220人など」と災害の様子が記録されている。

明治時代の洪水 明治時代以後も、大規模な洪水はたびたび発生した。特に明治43年（1910）の水害では、開湯した戸倉温泉が千曲川河原にあったために、流失の被害にあった。大正時代になると、内務省の直轄事業で、「内務省堤防」とよぶ、連続堤防と霞堤が建設されたことにより被害が激減した。

令和元年東日本台風による水害 令和元年（2019）10月12日、「令和元年東日本台風（台風19号）」の接近により、千曲川から増水した水が霞堤から流入したほか、雨宮地区等では堤防から越水も発生し、屋代地区や雨宮地区、上山田地区に床上・床下の浸水被害が出た。

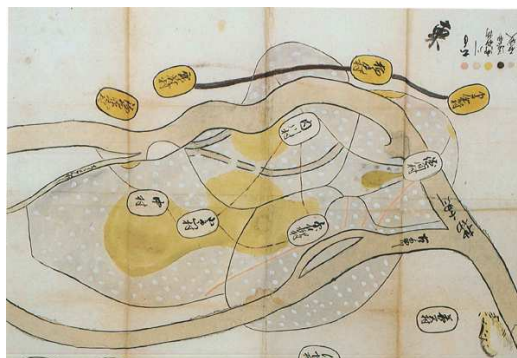
(2) 地震

長野県はフォッサマグナに位置し、複数の断層も確認されている。内陸部にあって地震の被害は少なくない。

善光寺地震 弘化4年（1847）5月8日22時頃、信濃から越後にかけて発生した地震は「善光寺地震」と呼



仁和の洪水砂層（地之目遺跡）



江戸時代の水害を示した絵図



明治43年の洪水で水没した温泉街



令和元年東日本台風による水害

ばれ、その規模はマグニチュード 7.4、震度 7 以上という大地震であった。千曲市域では、稲荷山宿が大きな被害を受けた。多くの建物が倒壊したうえ、大火が発生したと記録される。

松代群発地震 昭和 40 年（1965）から 5 年半も続いた群発地震である。長野市松代の皆神山付近を震源とし、大規模な被害は少なかったが、地震が長期化したことから観光面にダメージを与えた。

地震と文化財 善光寺地震では、稲荷山宿の建物のほとんどが火事で焼失した。松代群発地震では、重要文化財である智識寺の木造十一面観音立像が東京国立博物館に疎開されたほか、市指定文化財屋代小学校旧本館には、倒壊防止の鋼鉄支え枠が設置された。

（3）火 災

千曲市域で発生した火災には、市街地や住宅地での大規模な火災（以下「大火」）と、市域を取り囲む山林の火災、その他、文化財に関連する火災がある。

市街地の火災 江戸時代には、宿場で繰り返し火災が発生している。よく知られるのは、弘化 4 年（1847）の善光寺地震にともなう稲荷山宿の火災で、町のほとんどが消失し、宿泊中の善光寺参詣客が犠牲となった。

山林火災 桑原地区では、昭和 62 年（1987）に 69.23ha を、平成 6 年（1994）には上山田地区城山で 21ha、平成 8 年（1996）には、生萱地区で 50ha の山林を焼失した。山間部に豊富な水源をもたない当市では、水利の確保に時間を要するため、大規模化しやすい。

文化財の火災 平成 29 年（2017）9 月 6 日 19 時頃に発生したスズメバチ駆除を契機とする火災では、長野県宝松田家住宅主屋、斎館、新座敷、味噌蔵等 644 m²が全焼した（以下、松田館の火災）。主屋内に保管されていた民俗資料の多くが焼損し、県宝の建物は指定解除された。

本火災ののち、長野県教育委員会の要請のもと、県下の文化財関係職員が参集し、焼損した文化財のレスキュー作業が行われた。



木造十一面観音立像の疎開作業



屋代小学校旧本館の鋼鉄支え枠



生萱地区の山林火災



松田館の火災

千曲市の災害年表

風水害

災害名（通称含む）	発生年	概 要
仁和の地震による水害	仁和4年（888）	山崩れ、川溢れ千曲川流域6郡の人屋流没
亥年の満水	享保4年（1719）	被害状況は不明だが「亥年の満水」の名が残る
雪解けによる千曲川洪水	享保14年（1729）	2月雪解け水により増水、塩崎村（長野市）で決壊
亥年の大水害	享保16年（1731）	約5mの増水、松代城内浸水
戌の満水	寛保2年（1742）	北信地域一帯の大水害
千曲川大洪水	明和2年（1765）	4月千本柳・徳間・矢代被災、5月佐野川氾濫
千曲川大洪水	文政11年（1828）	大暴風雨により被害甚大
千曲川大洪水	天保7年（1836）	大風雨のため大洪水、沿岸被害大
千曲川大洪水	安政6年（1859）	戌の満水に匹敵する被害
千曲川洪水	明治3年（1870）	3月、5月、7月、8月と4回洪水あり
千曲川大洪水	明治15年（1882）	八幡・稲荷山町に大被害（浸水300戸）
千曲川大洪水	明治18年（1885）	稲荷山で浸水（200戸）、雨宮まで被害
千曲川大洪水	明治31年（1898）	戸倉温泉流失、稲荷山小学校被災
千曲川大洪水	明治40年（1907）	戸倉三ヶ用水崩壊、千曲川架橋の送湯管流失
千曲川大洪水	明治43年（1910）	旧更埴市域で4000戸以上浸水、明治最大の千曲川の洪水
台風7号（昭和34年）災害	昭和34年（1958）	羽尾地区河川氾濫
伊勢湾台風	昭和34年（1959）	リンゴ落下、農作物への被害も甚大
台風18号（昭和57年）災害	昭和57年（1982）	家屋浸水・田畑冠水等、旧更埴市域での被害額は5億5千万円
台風10号（昭和58年）災害	昭和58年（1983）	家屋浸水・田畑冠水・山崩れ・橋梁流失等被害甚大
上山田町集中豪雨災害	平成元年（1989）	床上浸水15戸、床下浸水170戸
令和元年東日本台風災害	令和元年（2019）	東北信地方を中心に広範囲で氾濫、長野市で堤防決壊し被害甚大

地 震

善光寺地震	弘化4年（1847）	火災・山崩れ・水害が発生、善光寺御開帳中により犠牲者多数
松代群発地震	昭和40年（1965）	震度5を含む大小地震が続いた

火 災

上戸倉宿の大火	享保19年（1734）	村中残らず焼失
下戸倉村の大火（八五郎火事）	宝暦10年（1760）	下戸倉村今井町の大火、全焼46軒、半焼5軒
上戸倉宿の大火	宝暦13年（1763）	本陣、問屋焼失
矢代村の大火	明和3年（1766）	矢代宿焼失、杭瀬下村へも飛火し約100軒焼失
下戸倉宿の大火	文政元年（1818）	本陣焼失
矢代村の大火	天保14年（1843）	大風により被害拡大
稲荷山宿大火	弘化4年（1847）	善光寺地震による火災、宿泊中の善光寺参詣客が犠牲となった
下戸倉宿の大火	安政2年（1855）	南風により上町東側と上中町の一部を焼失
上山田温泉の大火	大正10年（1921）	温泉旅亭と隣接する旅館数軒が焼失
八幡村の火事	昭和14年（1939）	11棟全焼
漆原の大火災	昭和15年（1940）	漆原全集落（上山田）を巻き込んだ大火、全焼4戸、半焼5戸
森村の大火	昭和16年（1941）	54戸150棟が全焼
生萱の火災	昭和18年（1943）	7戸23棟が焼失
上山田町役場の火災	昭和50年（1975）	木造2階建て617㎡を全焼
桑原地区の林野火災	昭和62年（1987）	焚火が飛火し杉林に延焼、69.23haを焼失
城山林野火災（上山田）	平成6年（1994）	3日間で21haを焼失
生萱地区山林火災	平成8年（1996）	50haを焼失

2. 文化財の防災・防犯に関する課題

（1）風水害

近年では台風や集中豪雨にともなう水害が多発している状況にあり、大規模な水害が発生した場合、建造物、美術工芸品、記念物、民俗文化財の浸水や損壊、滅失等の被害が想定される。

「令和元年東日本台風」による、床上・床下の浸水被害直後には、水損した家財道具が集積場に運搬されたが、その中には古文書や個人蔵の古写真が含まれていた。本水害を契機として、地域の文化財資料が失われた可能性がある。個人、地域（区・自治会）が所有している古文書や歴史資料の所在について現状確認作業をすすめ、情報共有を進める必要がある。

また、こうした災害の直後には、文化財担当職員は避難所の開設や消防団活動などに従事することが予想され、被災資料の救出に十分対応できないと考えられる。長野県内文化財関係者などと連携をとり、災害が発生した場合、文化財レスキューができる体制を整えることが重要である。

（2）地 震

長野県は、フォッサマグナに位置し、複数の断層も確認されている。善光寺地震や、松代群発地震のような大規模な地震によって文化財の建造物がき損、倒壊する恐れがある。耐震診断の実施や耐震化等の措置が必要である。

歴史文化財センター文化財係や所管する博物館施設の展示資料や収蔵・寄託資料については、転倒や落下による破損を防止する対策が必要である。また、風水害と同様に、地域における古文書等の所在について現状確認作業と文化財レスキューの方策を確認しておくことが必要である。

（3）火 災

千曲市内の指定等および未指定文化財の建造物は木造である。茅葺の建物も多く、火災に対しては脆弱である。また、稲荷山伝統的建造物群保存地区のように木造家屋が密集している地域では、ひとたび火災が発生すると延焼しやすい。消火栓や防火水槽をはじめとする消防水利を設置しているものの、放水銃の設置など防火対策の充実が望まれる施設が多い。

火災が発生した場合、建物はもとより建物内の文化財資料の焼損や滅失、また、消火作業にともなう文化財資料の水損が危惧される。平成29年（2017）に発生した松田館の火災の教訓からも、消防設備の充実や、定期的な訓練などを通じた初期消火体制について所有者や地域住民、消防団との情報共有が必要である。

（4）盗難・破壊

文化財の盗難については、森地区観龍寺で、木造聖観音菩薩立像（長野県宝）と木造不動明王立像（市指定有形文化財）が平成12年（2000）9月15日に盗難にあっており、現在も発見されていない。

また、木造の建造物では、屋根裏などにハクビシン等の小動物が侵入する事例が散見されており、建物内部の汚損等の被害が危惧される。無住の寺社等の建造物を中心に文化財のパトロールを通じて保管状況を把握するとともに、所有者や地域住民との情報共有を進め、防犯対策を実施する必要がある。

3. 文化財の防災・防犯に関する方針と措置

(1) 前提となる関連計画

文化庁のガイドライン等 令和元年（2019）、「国宝・重要文化財(建造物)等の防火対策ガイドライン」、「国宝・重要文化財(美術工芸品)を保管する博物館等の防火対策ガイドライン」及び「世界遺産・国宝等における防火対策5か年計画」が文化庁により定められた。関係自治体は文化財や文化財収蔵施設の点検を行い、防火対策に取り組むものとなっている。

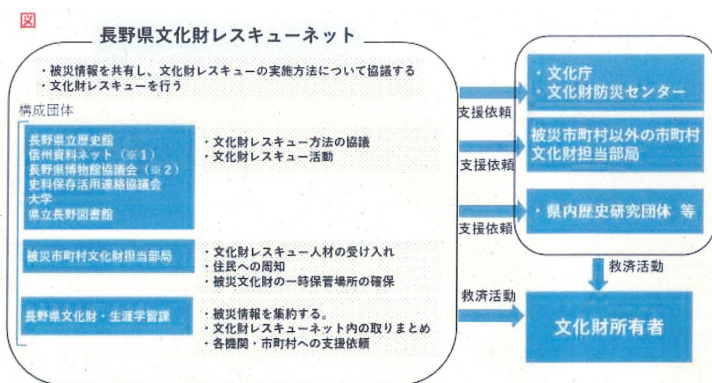
長野県文化財レスキューガイドライン 長野県では、平成29年（2017）に八幡地区の松田館の火災により、長野県宝松田家住宅主屋、斎館のほか、市指定文化財の新座敷、味噌蔵等が焼失したことを受け、「文化財防災等対策検討委員会」を設置し、災害時の文化財への対応について検討を行った。委員会はその結果を報告にまとめ、「文化財レスキュー」について検討するよう提言した。これを受けて県では、令和元年（2019年）7月、「文化財レスキューマニュアル策定に関わる懇談会」の設置、検討を行い、令和3年（2021）3月に「文化財レスキューガイドライン」を策定するとともに、「文化財レスキューマニュアル」を改訂した。これらによって、文化財レスキューの要請の方法、レスキューを行うまでの準備、県内のレスキューネットワーク、県、市町村の役割が記載され、具体的な文化財レスキュー作業の流れ等も示された。

千曲市地域防災計画 近年の台風災害や平成7年（1995）阪神・淡路大震災、平成16年（2004）新潟県中越地震、平成23年（2011）東日本大震災、令和元年東日本台風災害等、過去の大規模な災害の経験を教訓に、社会構造の変化を踏まえながら、市、県、指定地方行政機関、指定公共機関、その他関係機関及び市民がそれぞれの役割を認識し、相互に連携し、総合的かつ計画的な防災対策を推進することにより、かけがえのない市民の生命、身体及び財産を災害から保護することを目的として定められた。令和3年に改定版が作成されている。

文化財については、[第25節 建築物災害予防計画]に「文化財保護法等により指定された文化財は、災害発生後の火災等に備える」と記載しており、計画の内容に「3文化財の風水害予防」として「各種文化財の防災を中心とした保護対策を推進するため、次の事項を実施し、防災意識の向上、防災力の強化等の徹底を図る。（1）所有者又は管理者に対して、文化財の管理保護についての指導と助言を行う。（2）防災施設の設置促進とそれに対する助成を行う。（3）所有者は、防災管理体制及び防災施設の整備をし、自衛消防隊の確立を図る。」と記載されている。



松田館文化財レスキューの様子



長野県文化財レスキューネットワーク

(2) 防災・防犯に関する方針

第6章で示した「方針2-7 災害からまもる」に基づき、文化財の防災・防犯に関する4つの方針と関連する措置を以下に示す。

防災・防犯方針1

災害をしる

防災・防犯方針1-1 災害の歴史をしる

講座や講演会を開催し、千曲市域で発生した災害の歴史について周知を図る。

防災・防犯方針2

風水害・地震からまもる

防災・防犯方針2-1 建造物等の耐震対策をすすめる

指定等文化財の建造物や仏像の収蔵施設等の耐震対策を実施する。

防災・防犯方針2-2 収蔵資料の耐震対策をすすめる

博物館施設や施設収蔵資料の耐震対策を実施する。

防災・防犯方針2-3 風水害・地震時の文化財レスキュー体制を整える

地域・個人の所蔵資料を把握し、災害時のレスキューを迅速にできる体制を整える。

防災・防犯方針3

火災からまもる

防災・防犯方針3-1 火災にそなえる

定期的に訓練を行い、防火対策、初期消火の方法を共有する。消火設備を充実させる。

防災・防犯方針3-2 稲荷山地区を火災からまもる

(仮称)稲荷山伝統的建造物群保存地区整備計画(措置10)を策定する中で、防災対策についても作成を検討する。

防災・防犯方針3-3 火災時の文化財レスキュー体制を整える

文化財の所在や状態を把握し、災害時に文化財レスキューを迅速に実施できる体制を整える。

防災・防犯方針4

盗難・破壊からまもる

防災・防犯方針4-1 文化財を見まもる

住民、所有者、文化財調査員、長野県教育委員会と協力して文化財の定期的なパトロールを行う。

(3) 防災・防犯に関する措置

措置の内容を下の表に示す。各措置は、第7章に記した全体方針から防災・防犯に関わるものを抜粋し、再掲したものである。

防災・防犯方針1	災害をしる
----------	-------

防災・防犯方針1—1 災害の歴史をしる			
措置31（再掲） 総合的な学習の時間での協力			取組中
総合的な学習の時間やふるさと学習の中で、児童・生徒に災害の歴史を伝える。			
計画期間	全期間 令和5年度～令和12年度	財源	市費 関連地域 市全域

防災・防犯方針1—1 災害の歴史をしる			
措置32（再掲） 歴史講座の実施			取組中
災害の歴史と防災に関わる文化財を知ってもらうための講座を開催する。			
計画期間	全期間 令和5年度～令和12年度	財源	市費 関連地域 市全域

防災・防犯方針1—1 災害の歴史をしる			
措置39（再掲） 市民への地域計画周知			新 規
地域計画作成に伴う成果の展示や関連文化財群に基づく講演会を開催する。			
計画期間	前 期 令和5年度～令和8年度	財源	市費 関連地域 市全域

防災・防犯方針2	風水害・地震からまもる
----------	-------------

防災・防犯方針2—1 建造物等の耐震対策をすすめる			
措置13（再掲） 国・県指定文化財の修理支援			取組中
文化財の修理と合わせ、耐震診断を実施し、必要に応じて耐震補強を支援する。			
計画期間	全期間 令和5年度～令和12年度	財源	市費/国補助/県補助 関連地域 市全域

防災・防犯方針2—1 建造物等の耐震対策をすすめる			
措置16（再掲） 屋代小学校旧本館の改修 重点措置			新 規
老朽化が著しく、耐震性も極めて低い。後利用を検討したのち、耐震補強・外壁修理を実施する。			
計画期間	前 期 令和5年度～令和8年度	財源	国補助・地方創生拠点整備交付金 関連地域 屋代

防災・防犯方針2—1 建造物等の耐震対策をすすめる			
措置17（再掲） 市指定文化財の修理支援			取組中
文化財の修理と合わせ、耐震診断を実施し、必要に応じて耐震補強を支援する。			
計画期間	全期間 令和5年度～令和12年度	財源	市費/国補助/県補助 関連地域 市全域

防災・防犯方針2-1 建造物等の耐震対策をすすめる		
措置20（再掲） 登録有形文化財の修理支援		取組中
災害時の修理や小規模修理を中心に、耐震対策を含めた修理支援を推進する。		
計画期間 全期間 令和5年度～令和12年度	財源 市費/国補助/県補助	関連地域 市全域

防災・防犯方針2-2 収蔵資料の耐震対策をすすめる		
措置46（再掲） 歴史文化財センターの移転 重点措置		取組中
千曲市役所旧上山田庁舎に移転し、古文書、行政文書、考古資料、民俗資料といった文化財について、防災上より安全な場所での保存管理を進める。		
計画期間 前期 令和5年度～令和8年度	財源 市費	歴史文化財センター上山田分室

防災・防犯方針2-2 収蔵資料の耐震対策をすすめる		
措置47（再掲） 森將軍塚古墳館・科野の里歴史公園の改修		取組中
展示・収蔵資料の転倒、落下防止の対策を進める。		
計画期間 全期間 令和5年度～令和12年度	財源 市費/国補助/県補助	森將軍塚古墳館

防災・防犯方針2-2 収蔵資料の耐震対策をすすめる		
措置48（再掲） さらしなの里歴史資料館・古代体験パークの改修		取組中
展示・収蔵資料の転倒、落下防止の対策を進める。		
計画期間 全期間 令和5年度～令和12年度	財源市費/国補助/県補助	さらしなの里歴史資料館

防災・防犯方針2-3 風水害・地震時の文化財レスキュー体制を整える		
措置4（再掲） 自治体誌掲載史料調査 重点措置		取組中
災害時に迅速なレスキューできるよう、自治体誌所載区有文書と個人所有文書の保管実態を把握する。		
計画期間 前期 令和5年度～令和8年度	財源 市費	関連地域 市全域

防災・防犯方針2-3 風水害・地震時の文化財レスキュー体制を整える		
措置40（再掲） 市民と協働した文化財調査の実施		取組中
災害時に迅速なレスキューができるよう、市民と協力して、自治体誌所載区有文書と個人所有文書の保管実態等の調査を実施する。		
計画期間 前期 令和5年度～令和8年度	財源 市費/国補助/県補助	関連地域 市全域

防災・防犯方針2－3 風水害・地震時の文化財レスキュー体制を整える		
措置42（再掲） 長野県立歴史館との連携		取組中/新規
情報共有を密にし、風水害・地震で文化財レスキューが必要な事態が生じた場合は、協力を行う。		
計画期間 全期間 令和5年度～令和12年度	財源 市 費	関連地域 市全域

防災・防犯方針3

火災からまもる

防災・防犯方針3－1 火災にそなえる		
措置15（再掲） 防災訓練の実施・防災設備の整備		取組中
毎年1月の文化財防火デーに、対象の文化財を定めて消防署や消防団、自衛消防団と連携し、防災訓練を実施する。国指定文化財は、消火設備の整備を検討する。		
計画期間 全期間 令和5年度～令和12年度	財源 市 費	関連地域 市全域

防災・防犯方針3－2 稲荷山地区を火災からまもる		
措置10（再掲） （仮称）稲荷山伝統的建造物群保存地区整備計画策定 重点措置		取組中
稲荷山地区の街並み整備計画を策定し、合わせて防災計画を検討する。		
計画期間 前期 令和5年度～令和8年度	財源 市 費	関連地域 稲荷山地区

防災・防犯方針3－3 火災時の文化財レスキュー体制を整える		
措置40（再掲） 市民と協働した文化財調査の実施		取組中
市民と協力して市内の古文書などの実態を把握し、所在を把握する。		
計画期間 前期 令和5年度～令和8年度	財源 市費/国補助/県補助	関連地域 市全域

防災・防犯方針3－3 火災時の文化財レスキュー体制を整える		
措置42（再掲） 長野県立歴史館との連携		取組中/新規
情報共有を密にし、火災で文化財レスキューが必要な事態が生じた場合は、協力を行う。		
計画期間 全期間 令和5年度～令和12年度	財源 市 費	関連地域 市全域

防災・防犯方針4

盗難・破壊からまもる

防災・防犯方針4－1 文化財を見まもる		
措置27（再掲） 市文化財調査員・管理団体・長野県教育委員会による文化財の巡視		取組中
市文化財調査員・管理団体・長野県教育委員会による文化財のパトロールを行う。		
計画期間 全期間 令和5年度～令和12年度	財源 市費/県補助	関連地域 市全域

第 10 章 文化財の保存・活用 の推進体制

第10章 文化財の保存・活用の推進体制

1. 協議会の設立

本計画の推進にあたっては、文化財保護法第183条の9に基づく千曲市文化財保存活用地域計画協議会を設置し、進捗の管理、計画変更、円滑な事業の実施に向けた協議・情報共有・調整を行う。事務局は、教育委員会歴史文化財センターが担い、文化庁の指導を仰ぎながら、庁内の関係各課との連絡調整を行いつつ、事業対象となる文化財の所有者や地域住民等と協議の上、一体となって事業を推進する。

2. 行政における連携体制の構築

（1）文化財部局の体制整備

本計画の推進においては、文化財に関する専門知識が不可欠である。学芸員資格を有し、専門知識を持つ職員を教育委員会歴史文化財センター文化財係および所管する博物館施設に配置し、必要に応じて人員体制の充実を図りながら計画を遂行する。

（2）庁内関連部局間の連携推進

本計画の推進においては、庁内関連部局との連携や調整が不可欠である。年1回の開催を予定する庁内検討部会を基軸としながら、随時協議の場を設け、施策の調整と効率的な事業の推進を図る。

（3）文化庁・長野県教育委員会との連携推進

本計画の推進について、情報共有を行う。また、国・県指定等文化財の整備や現状変更等において指導を受ける。長野県教育委員会による長野県文化財保存活用大綱の作成・認定後は、大綱内容に基づき、連携体制の充実を図る。

（4）隣接自治体との連携

市内に所在する、長野県立歴史館や、日本遺産認定を契機として連携の方針を定めている上田市、長野地域連携中枢都市圏構想のなかで学芸員の相互協力を定めている長野市、歴史文化の共通性があり、山城などを共有する坂城町などの隣接自治体と連携を進めていく。

3. 地域との連携体制の推進

（1）所有者との連携

文化財所有者の大半は、市内の個人や法人、区や自治会である。指定等文化財は、行政でも財政的支援を講じてきたが、各所有者の不断の努力によって継承されてきたものである。今後も所有者に対する援助と連携を行い、適切な保存を進める。活用においては活用する側と所有者とが、相互に有意義な事業となるよう十分な調整を図る。

（２）地域団体との連携

市内には、歴史文化の研究会、特定文化財の保存団体、歴史を中心としたまちづくりに取り組んでいる団体が数多く存在する。また、市内の文化財等のガイド団体も存在する（以下、地域団体）。各団体は、活動の目的や方向性、頻度、内容などが多様である。これまで、千曲市に所在する多くの文化財が継承されてきたのは、所有者とともに、こうした団体が市の歴史文化に誇りと関心をもって文化財の保全や周知活動を実施しているからに他ならない。地域団体は地域総がかりでの文化財の継承において重要な役割を果たしているが、会員の高齢化や会員数の減少など、将来の活動に課題を残している。一方、地域の歴史文化に関心をもって、あらたに設立された地域団体もある。今後は、課題や活動方向について聞き取りを行いながら、一層の連携を構築していく。また、地域団体のうち、諸条件が整っている団体については、法第192条の2に基づき、文化財保存活用支援団体としての指定を検討していく。

（３）学校との連携

学校教育における「地域学習」や「ふるさと学習」等を通じて、歴史文化の魅力をわかりやすく伝え、次の世代が本市の歴史文化に興味をもつことができる機会を充実するため、市内の学校教員と地域団体、行政の3者の連携を推進する。

4. 専門家との連携体制の推進

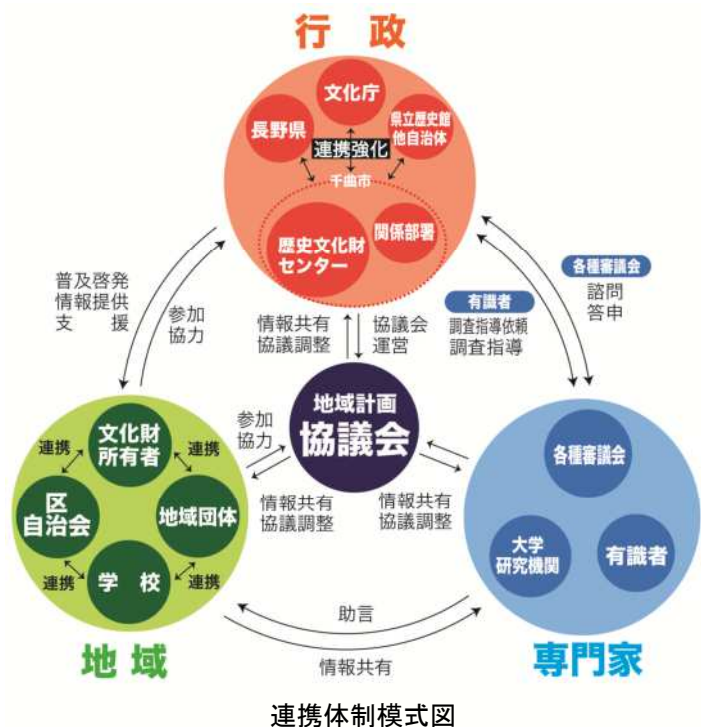
（１）有識者との連携

千曲市では、これまで千曲市文化財保護審議会委員や千曲市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員のほか、大学や研究機関等に所属する研究者より、専門的な見地から調査指導・修理指導・助言を受け、事業を進めてきた。今後、有識者との一層の連携を図り、学術的な見地から、文化財の適切な価値づけを強固なものにする。

（２）大学等研究機関との連携

第4章で述べたように、当地域は、歴史学における地域研究のフィールドとして、さまざまな大学により調査がおこなわれてきた。現在も、姨捨の棚田や稲荷山伝統的建造物群保存地区においては、大学の協力を得ながら調査等をすすめている。

文化財にかかる学問分野が細分化している今日では、大学をはじめとする研究機関の協力は欠くことができない。また、調査等で地域に県内外の大学生が入ることで、地域住民との交流が活発化するとともに、県内外に千曲市の魅力を発信するといった、副次的な効果も期待できる。今後、協力体制の充実を検討していく。



文化財行政の体制

組 織		主な業務内容	構 成
教育委員会 歴史文化財センター	文化財係	文化財の保護・調査等 ・文化財の指定・解除、修理、現状変更手続き (文化財保護審議会) ・埋蔵文化財関連手続き、発掘調査 ・史資料の調査、収集及び保管 管理運営施設 ・歴史文化財センター	職員7名
	歴史文化財センター 上山田分室	歴史文化財センター上山田分室の管理 ・施設管理 公文書の保存 ・非現用公文書の保管 管理運営施設 ・城山史跡公園 ・智識の杜公園	職員2名
	森將軍塚古墳館・ 科野の里歴史公園	・史跡森將軍塚古墳の保護 ・古墳館の管理運営 ・体験学習、森將軍塚まつり	職員5名
	さらしなの里 歴史資料館・ 古代体験パーク	・さらしなの里歴史資料館の管理運営 ・古代体験パークの維持管理	職員3名

条例・要綱・規則に 基づく委員会・組織	千曲市文化財 保護審議会	文化財の保存及び活用に関する重要事項 についての調査及び審議 (設置根拠：千曲市文化財保護条例第40条)	委員7名(歴史3名、 考古・美術工芸・建造 物・民俗各1名)
	千曲市伝統的 建造物群保存地区 保存審議会	稲荷山伝統的建造物群保存地区の保存に係る重要 事項の審議 (設置根拠：千曲市伝統的建造物群保存地区保存 条例第11条)	委員11名(学識経験者 3名、所有者2名、市 民代表6名)
	千曲市文化財 保存活用地域 計画協議会	千曲市文化財保存活用地域計画記載事業等に 対する協議・調整(令和5年4月設置予定)	委員13名(学識経験者 6名、観光関係者1 名、地域委員5名、長 野県1名)
	文化財調査員	地域の文化財の調査や巡視 (設置根拠：千曲市文化財調査員設置規則)	22名
任意設置の委員会	「姨捨の棚田」 整備委員会	名勝「姨捨(田毎の月)」、重要文化的景観「姨 捨の棚田」の整備、保全に係る事項の助言	委員10名(学識経験者 5名、地元委員5名)
	松田家資料保存 整備委員会	松田家資料の公開に向けた整備事業に対する助言	委員7名(有識者4 名、地元委員3名)

職員は会計年度任用職員を含む。

連携を推進する関連部局・関連機関・団体

組 織		主な連携内容
庁内の 関連部局	建 設 部 都市計画課	都市計画、景観条例、公園及び緑地に関すること
	経 済 部 農林課	農村振興地域の整備、自然保護及び緑化推進、林地開発に関すること
	経 済 部 観光交流課	観光振興、旅行客の誘致、地域ブランド商品の開発に関すること
	企画政策部 日本遺産推進室	日本遺産構成文化財のPR及び観光活用の推進に関すること
	企画政策部 総合政策課	総合計画、土地利用計画、まちづくり・地域づくりに関すること
	市民環境部 環境課	植物等自然環境の保全に関すること
	総 務 部 財政課	予算編成、決算等における財政調査・分析に関すること
	総 務 部 危機管理防災課	文化財の防災計画、防災訓練に関すること
	教育委員会 教育総務課	教育行政の総務、学校教育の振興に関すること
	教育委員会 生涯学習課	生涯学習、図書館、地区公民館に関すること
市内の 関連機関	信州千曲観光局	市内の観光案内、着地型旅行の企画・調整・営業による旅行者の誘致
	千曲商工会議所 戸倉上山田商工会	市内の商工業の振興、地域づくりに関すること
国	文化庁	地域計画に関する指導・助言
	国土交通省	歴史的風致維持向上計画・街なみ環境整備事業に関する指導
	農林水産省	農政事業に関する指導
長野県	長野県教育委員会 文化財・生涯学習課	長野県内の国指定、県指定等の文化財の保存・活用に関すること
	長野県立歴史館	長野県内の歴史文化に関する資料の収集、保存、調査研究及び教育普及に関すること
	長野県埋蔵文化財センター	長野県内の埋蔵文化財の保護及び調査研究活動
	長野県千曲建設事務所	千曲市地域における、道路等の整備・管理
	長野地域振興局	千曲市地域における、農地、森林に関する事業
連携 自治体	長野市教育委員会	長野地域連携中枢都市圏構想に基づく相互協力
	上田市教育委員会	日本遺産事業連携方針に基づく情報共有・共同イベントの企画
	坂城町教育委員会	情報共有・共同イベントの企画
大 学	信州大学	姨捨の棚田の整備・活用
	工学院大学	稲荷山伝統的建造物群保存地区の建造物調査・まちづくりの研究
	筑波大学	東京教育大学調査資料の整理・活用
	東京大学	五加村文書の調査研究

千曲市における主な地域団体一覧（令和4年3月現在）

種 別	地区名	団体名	主な活動内容	刊行物		
郷土史研究	土 口	土口歴史民俗同好会	土口地域の歴史文化の研究			
	生 萱	生萱を語る会	生萱地域の歴史文化の研究	2021『生萱の歴史』		
	倉 科	倉科の里ガイドブック編纂委員会（倉科区）	倉科地域の歴史文化の研究	2019『倉科の里Ⅰ』『倉科の里Ⅱ』 2020『倉科の里Ⅲ』		
	屋 代	東信史学会更埴支会	講演会・視察研修を実施			
	屋 代	更埴郷土を知る会	調査研究、古文書学習会、見学会開催、会誌の発行（年1回）	会誌『ちょうま』		
	屋 代	屋代を語る会	屋代地区の活性化を目的とした、歴史研究や講演会等の開催	会誌『やしろ』		
	戸 倉	戸倉史談会	講演会・講習会・古文書教室を実施、会誌の発行（年1回）	会誌『とぐら』		
	上山田	東信史学会上山田支会	講演会・視察研修・小学校への出前講座を実施			
カ 石	力石を語る会	力石地域における歴史遺産の周知	2013『力石ってこんなにすごいんだ！』			
文化財保存	記念物等の継承	屋 代	森將軍塚古墳友の会	古墳のボランティアガイド、森將軍塚まつりへの参加		
		倉 科	倉科史跡保存会	国史跡「倉科將軍塚古墳」、「鞍骨城」、「鷲尾城」等文化財の管理		
		倉 科	倉科の自然を守る会	市天然記念物「セツブンソウ群生地」の保護	2017『セツブンソウ』（パンフレット）	
		羽 尾	さらしなの里友の会	さらしなの里歴史資料館の運営協力、さらしなの里縄文まつり運営協力	会報『さらしなの里友の会だより』	
		羽 尾	更級かたりバの会	地元の民話を方言で語り継ぐ活動の実施		
		羽 尾	明徳寺の大杉保存会	市天然記念物「明徳寺の大スギ」の保護		
		羽 尾	冠着山の自然と文化遺産を保存する会	登山ガイドや古道の手入れ等、冠着山の自然保護と文化遺産の保存活動		
		戸 倉	北山柏保存会	市天然記念物「柏王の大カシワ」の保護		
		戸 倉	戸倉セツブンソウを育てる会	市天然記念物「セツブンソウ群生地」の保護	2017『戸倉セツブンソウ群生地』（パンフレット）	
		新 山	新山の歴史と自然に学ぶ会	市史跡「入山城跡」の整備、新山地区の歴史と自然の継承		
		全 域	かけはしの会	郷土料理講習や農業体験等を通した食と農の文化の伝承		
		磯 部	陰の松保存会	学習会の開催や地元イベントへの参加	2011『10周年記念誌陰の松よ永遠なれ…！』	
	伝統芸能等の継承	雨 宮	雨宮坐日吉神社御神事踊り保存会	重要無形民俗文化財「雨宮の神事芸能」の継承		
		稲荷山	稲荷山勇獅子保存会	市指定無形民俗文化財「稲荷山祇園祭」の勇獅子の継承	2007『勇獅子』	
		稲荷山	稲荷山神輿会	市指定無形民俗文化財「稲荷山祇園祭」の神輿の継承		
		八幡・更級五加	武水別神社氏子総代	記録選択文化財＊「武水別神社の頭人行事」の継承		
		八 幡	代地区引屋台等保存会（雲井連）	引屋台・担屋台・神楽の伝承と祭りでの奉納		
		八 幡	中原郷土芸能保存会	武水別神社「仲秋祭」、記録選択文化財「武水別神社の頭人行事」等の祭典での神楽の継承		
		大 池	大池区	市指定無形民俗文化財「大池の百八灯」の継承		
		戸 倉	水上布奈山神社氏子会	市指定無形民俗文化財「水上布奈山神社の御柱祭」の継承		
		上山田	上山田太々神楽保存会	市指定無形民俗文化財「上山田太々御神楽」の継承		
		娯楽の棚田保全	八 幡	田毎の月棚田保存同好会	耕作放棄田における耕作体験活動、耕作請負	
			八 幡	千曲市娯楽棚田名月会	「棚田貸します制度」のオーナー田の維持管理・耕作指導	
			戸 倉	科野農業塾	棚田での耕作、農業を通した地域おこし活動	
			八 幡	千曲市棚田保全推進会議	「棚田貸します制度」の実施	
			八 幡	四十八枚田保存会	棚田の伝統的形態保全活動	
			八 幡	娯楽棚田会	棚田での耕作を通じた「田毎の月」の景観保全活動	
			八 幡	名勝娯楽棚田倶楽部	棚田の景観保全活動と農業体験交流事業	
＊伝統芸能等の継承については、指定等文化財に関わる団体を掲載 ＊記録選択文化財：記録作成等措置を講ずべき無形の民俗文化財						
まちづくり	森	NPO法人あんずの里振興会	「あんずの里スケッチパーク」の管理、アンズ果樹園の管理・植樹等			
	屋 代	千曲ふるさと物語	地元小学校と連携したふるさと学習成果の発表のための公演会開催	2022『千曲ふるさと物語の集い 記録集』		
	屋 代	一重山みらい会議	一重山の歴史と自然の継承、環境整備			
	小 島	小島区まちづくり委員会	地域発展と地域住民の絆づくりを目的とした各種活動			
	稲荷山	稲荷山地区まちづくり推進会議	稲荷山地区の活性化を目的に各種イベントの開催			
	稲荷山	NPO法人稲荷山蔵の会	建造物を活用した店舗での郷土料理の販売やまち歩き案内			
	稲荷山	（一社）稲荷山町・くらしと心を育む会	啓発冊子の印刷等を通した稲荷山地区における歴史遺産の周知	2015『このまちのかたち』他		
	稲荷山・桑原・八幡	千曲市川西地区振興連絡協議会	川西地区の振興を目的とした街道ウォーキングや講演会の開催	2013『写真でつづるふる里のむかし』		
	桑 原	桑原地区振興会	桑原本陣跡の管理、国登録有形「荏沢川石堰堤」周辺の環境整備等			
	八 幡	八幡まちづくり実行委員会	武水別神社の節分祭、菊花展、朝市などの活動			
	若 宮	さらしなルネサンス	「さらしな」の地名を活用した地域づくりの展開	2016『美しささらしな』2017『さらちゃん』		
	上山田	大わらじ委員会	わら馬・注連縄づくり、農業指導			
ガイド	全 域	楽知会	千曲市内の観光有償ボランティアガイド			

課題・方針・措置一覽

市：市費 事：事業者負担

県：県補助 観：信州千曲観光局費

国：国補助　　長：長野市費　坂：坂城町費　上：上田市費

◎ 主体的に取り組む

○ 連携協力を行う

風致事業：千曲市歴史的風致維持向上計画第6章記載の事業 番号は事業番号

赤字は計画作成に伴う新規計画の事業

[illegible]

千曲市文化財保存活用地域計画

発行日	令和4年7月
発行	千曲市/千曲市教育委員会
編集	千曲市教育委員会 歴史文化財センター

〒387-0012 長野県千曲市大字桜堂 268 番地 1

TEL 026-261-3210 FAX 026-261-3211

E-mail bunkazai@city.chikuma.lg.jp

ChikumaCity Regional Plan for the Protection and utilization of cultural properties

2023 ▶ 2030

July,2022

Chikuma City
Chikuma Municipal Board of Education

